

点で日吉谷に類似しており、原産地における製品製作への依存度が高いことを予想させる。三条黒島、郡家田代出土石器群における角錐状石器の「嵌入」と交互剥離等の横長剥片剥離技術との親縁性を重視すれば、上記の瀬戸内技法を主体とする狭義の国府系石器群とは若干の時期差を認めるのが現段階では妥当と考える。

ところで、郡家田代では広島県冠地方（飯山）の石材が搬入されており、他地域との交流が想定された（本書第5章）。冠遺跡群では、主要器種に角錐状石器の比率が高く、瀬戸内技法を客体的に持ちながら、底面が固定されない板状石核素材を使用した横長剥片剥離技術が卓越する内容をもつ<sup>(82)</sup>もので、郡家田代の石器群中にも少なからず共通する石器が見られる。角錐状石器の「嵌入」の動態を把握する上で、冠地方の石材が直線距離で約160km離れた讃岐地方にもたらしている事実は重要である。石材の搬入が集団の両原産地にわたる直接採取の結果か即断できないが、前提として、先に見た石器製作の「異所展開」に保証された集団の広範囲に及ぶ遊動を想定する必要がある、これはまた、直接採取か交換かは別として列島AT直後において発現したとされる石材原産地の開発を契機とする地域性<sup>(83)</sup>が、完成された石器製作システムを背景として遊動領域を拡大し、他地域との接触が促進されることにより、内在的に変容しえた可能性も考えられる。日常的な回帰遊動領域が拡大した結果として角錐状石器が「嵌入」したとすれば、そこに集団の移住や交換を契機として一部の器種が突如として搬入されることはあるとしても、むしろ漸次的に共通要素が備わる過程も当然考慮されるべきである<sup>(84)</sup>。

三条黒島において、角錐状石器の初期工程が瀬戸内技法の第2工程前半段階と同列的に共存する点は、在来のナイフ形石器を目的とする石器製作システムに、角錐状石器が別器種として内在的に取り込まれた様相を示すものである。一方で、高松市中間西井坪遺跡では従来原産地のみで知られていた集中的な石器生産が、角錐状石器を中心として原産地からやや（約5km）離れた地域で大規模に展開したことが予想され、同時に出土する石器には国府型ナイフ形石器も含まれるが、二側縁加工や交互剥離石核から得られた横長剥片を素材とするナイフ形石器など、冠地方に類似する形態のものが多くは注目される。

この辺りの様相は、中間西井坪石器群の全体像が整理される中で、また新たな資料の増加に従って次第に明らかになってくるであろうが、他地域との接触による新器種の受容が三条黒島のように在来の石器製作システムに共存する形態として見られるだけではない可能性も考えられることから、今後角錐状石器を組成する石器群の内容については検討を要する点である。

以上、角錐状石器が共存する以前のいわゆる「国府期」の単純資料が揃いつつある現状を踏まえると、三条黒島や郡家田代の石器群は絹川氏の2段階に相当するという見解は支持されうが、中間西井坪の状況は在来の石器製作システムとの関係や西部瀬戸内などの他地域との比較を踏まえて、今後さらに検討する必要があるものと言える。

#### 4 まとめ

近年知られるようになった五色台産サヌカイト石材分布圏における平野部の遺跡には、石器の分布や組成、そして礫群の欠如などに多様性や共通性があることを予察した。また、石核の大きさや主要石器の再加工などにみられる石器の消耗度を基にして、従来から指摘される国分台遺跡を中心とした五色台産サヌカイト石器製作に特徴的な「異所展開」システムがかなり厳密に機能しており、当遺跡のブロックはその初期に行われた階梯である可能性を考えた。

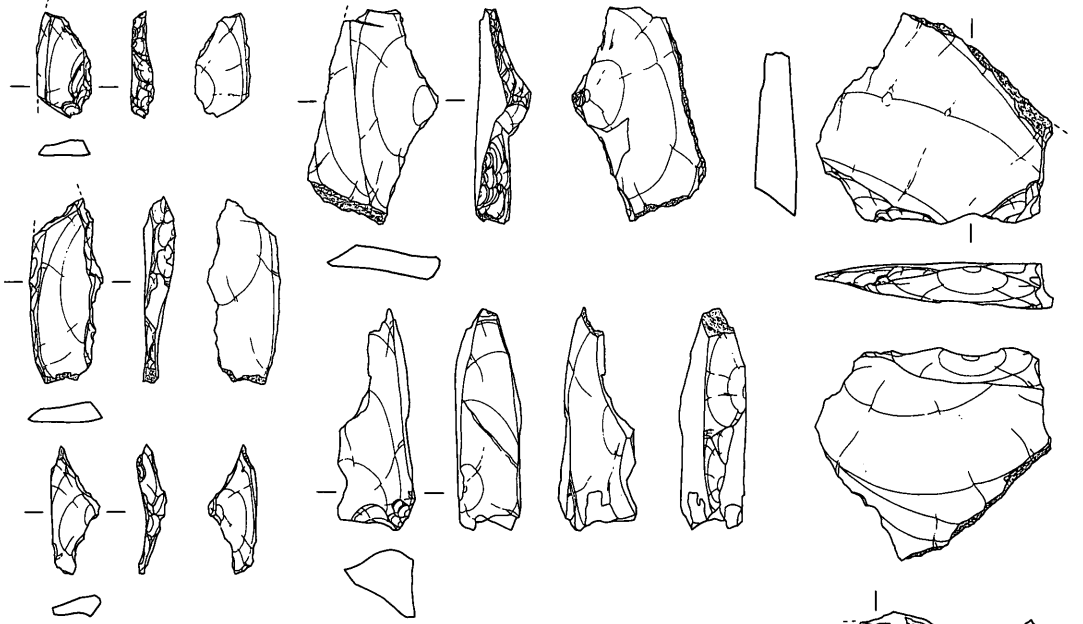
剥片剥離技術の面では、接合資料を基にして広義の瀬戸内技法に含まれる類型1と角錐状石器との関係が考えられる類型2を区分した。さらに、類型2については角錐状石器と横長剥片素材ナイフ形石器を特徴とする西部瀬戸内地方の剥離技術との関係について予察し、それが在来の石器製作システムと共存することを指摘した。

編年的位置づけについては、角錐状石器が共存する以前の国府型ナイフ形石器を主体とする狭義の「国府期」段階の資料と区別して、角錐状石器の「嵌入」後の時期の所産とした。そして、角錐状石器の「嵌入」が横長剥片剥離技術の台頭とともに、在来の石器製作システムに影響を及ぼした可能性を予察し、今後の検討項目とした。

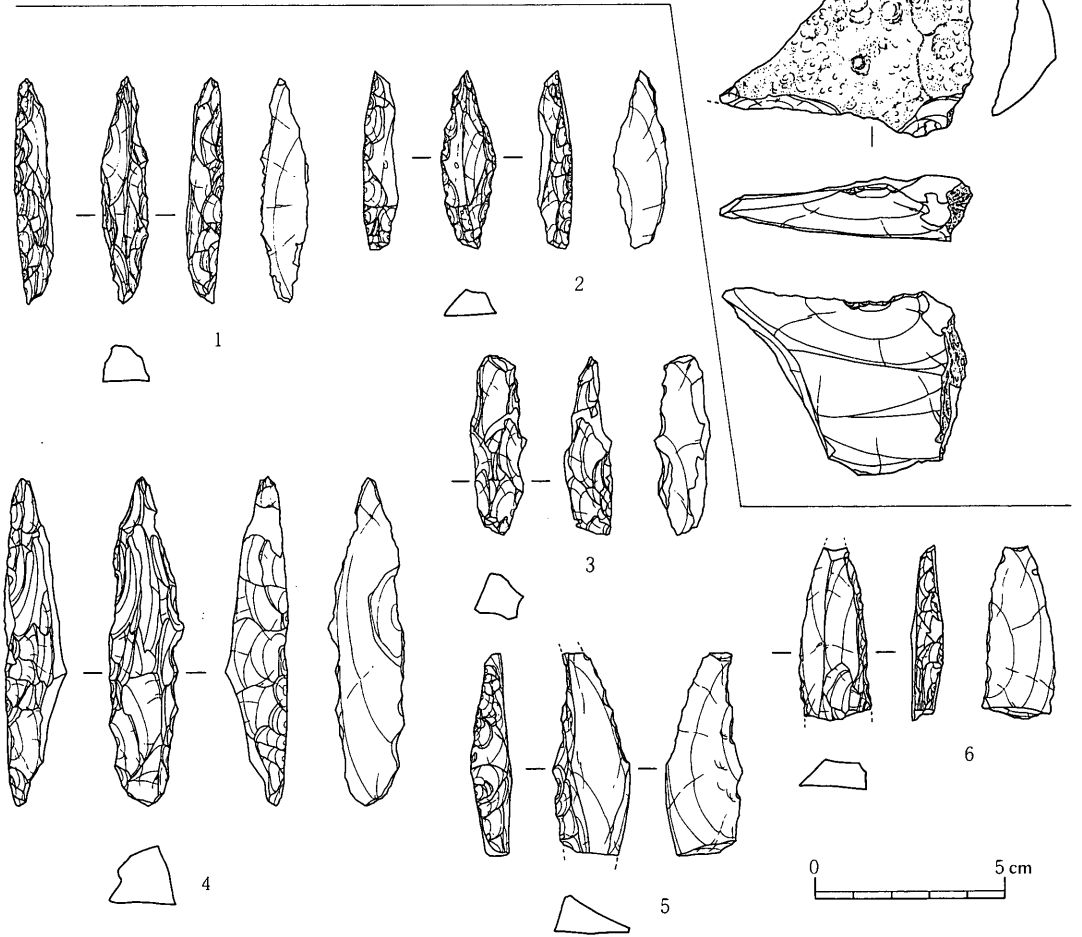
備讃瀬戸島嶼部から出土する膨大な石器量に比べ、今回の発掘調査で出土した石器量は微々たるものである。しかし、一括資料としての把握と接合作業を通して具体化される石材消費の状況と石器製作技術には、島嶼部では得られなかった情報が数多く盛り込まれている。ここで提示されたものが、今回の資料のもつ情報のすべてとは決して言えず、また、適切な資料提示であったかどうかの危惧もある。今後新たな資料が提示される毎に、フィードバックされ、適宜補正されることが必要であろうし、また遡って原産地や島嶼部の石器群の再評価を行うことが必要と考える。

僅か140点あまりの資料をもとに予察を広げすぎ、まとまりのない後論となったが、残余は後の課題としたい。

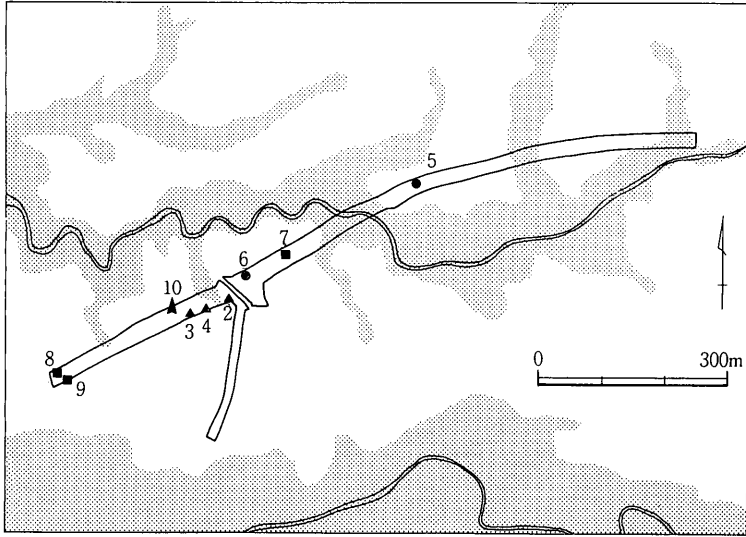
なお、綾歌郡綾南町所在の西村遺跡で出土した旧石器関係資料を章末に掲載している。西村遺跡は昭和53～58年度に国道32号線綾南バイパス建設等に伴って香川県教育委員会や綾南町教育委員会によって発掘調査が行われた<sup>(65)</sup>遺跡である。綾川中流域の羽床盆地中央部で、東西に流れる御寺川の南北岸に広がる平坦な段丘面上に立地する。標高50mほどの段丘面には後に中世土器生産に使用された良質な粘土層が発達し、窯跡や粘土採掘土坑等が確認されている。これらの遺構埋土に混在して旧石器や縄文草創期の資料が出土している。これらは中世遺構等に混在して出土したものであるが、石器の表面はほとんど磨滅がなく、近隣あるいは当該箇所には包含層が存在した可能性が高いものと考えられる。主要なものに国府型ナイフ形石器、角錐状石器、尖頭器、有舌尖頭器等がある。主要石器の出土地点を図上に示すと、延長700m以上にわたって分布しており、広範囲にわたって旧石器の遺跡が所在する様子が窺える。また、角錐状石器の分布が若干まとまる傾向にあることも注目される点である。今後周辺において石器ブロック等の遺構が確認される可能性が高く、丸亀平野中央部と共に「遺跡群」として把握できる地域と考える。



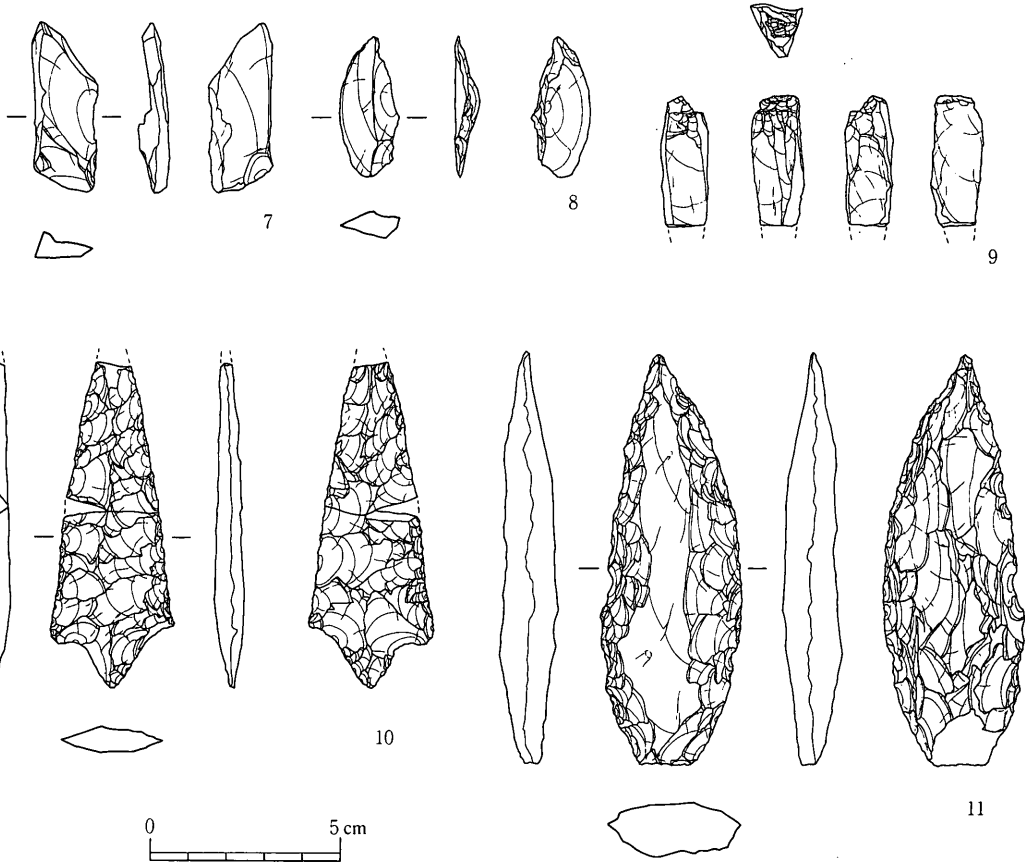
中間東井坪遺跡出土石器



第194図 中間東井坪遺跡・西村遺跡出土遺物



西村遺跡の主要石器出土位置（番号は実測図に対応）



第195図 西村遺跡出土遺物および出土位置図

注)

- (1) 長谷川修一・横瀬廣司・斉藤実「四国の地形と地質」『30年のあゆみ』土質工学会 1989
- (2) 長谷川修一・斉藤実「讃岐平野の生いたち－第一瀬戸内累層群以降を中心に－」『アーバンクボタ』28号1989
- (3) 薬科哲男・東村武信・鎌木義昌「蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)」『考古学と自然科学』第10号1977
- (4) Hiroaki Sato and Nobuaki Kuchitsu "SANUKITE AND HIGH-MAGNESIAN ANDESITE IN NORTHEAST SHIKOKU" ,29th IGC FIELD TRIP B24,1992
- (5) (1)に同じ
- (6) 木下晴一「丸亀低地の微地形－発掘調査成果を中心として(予察)」『香川地理学会会報』No.10 1990
- (7) 渡部明夫「遺跡の立地と環境」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 I 羽佐島遺跡(I)』香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団 1984
- (8) 川畑迪「国分台無土器文化石器」『香川県文化財協会報』4 1959  
竹岡俊樹「朱雀台遺跡におけるナイフ形石器の形態分析」『物質文化』29 1978  
竹岡俊樹「香川県朱雀台遺跡における石刃技法の分析」『考古学研究』26-4 1980  
竹岡俊樹「瀬戸内海地方における石器群の変遷」『旧石器考古学』21 1980  
竹岡俊樹「国分台遺跡群」『日本の旧石器文化』3 雄山閣 1984  
竹岡俊樹「香川県朱雀台第1地点における瀬戸内技法の分析」『石器研究法』言叢社 1989  
香川県教育委員会「国分台遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報昭和59～62年度』1988
- (9) 絹川一徳「国分台遺跡における石器製作の技術的構造－原産地遺跡間の比較を通して－」『考古学研究』35-1・2 1988
- (10) 鎌木義昌「香川県城山遺跡出土の石器」『古代学』8-3 1959 (鎌木義昌『瀬戸内考古学研究』河出書房新社1996再録)
- (11) (3)に同じ
- (12) 松本豊胤「旧石器時代」『香川県史』第13巻資料編考古 香川県 1987
- (13) 竹岡俊樹「瀬戸内海地方における石器群の変遷」『旧石器考古学』21 1980

竹岡俊樹「国分台遺跡群」『日本の旧石器文化』3 雄山閣 1984

- (14) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報昭和58年度』1983
- (15) 丹羽祐一「古墳時代」『新編丸亀市史4史料編』1994
- (16) 竹下和男「原始古代」『飯山町史』
- (17) 片桐孝浩編『中小河川大東川改修工事(津ノ郷～弘光橋間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津元結木遺跡』香川県教育委員会。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1992
- (18) 木下晴一編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第16冊川津二代取遺跡』香川県教育委員会。日本道路公団。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1995
- (19) 山下平重編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第22冊川西北鍛冶屋遺跡』香川県教育委員会。日本道路公団。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996
- (20) 佐藤竜馬編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第24冊郡家田代遺跡』香川県教育委員会。日本道路公団。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996
- (21) 廣瀬常雄編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第17冊郡家大林上遺跡』香川県教育委員会。日本道路公団。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1995
- (22) 和田素子編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第12冊郡家一里屋遺跡』香川県教育委員会。日本道路公団。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1993
- (23) 山下平重編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第13冊郡家原遺跡』香川県教育委員会。日本道路公団。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1993
- (24) 片桐孝浩編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第11冊川西北鍛冶屋遺跡』香川県教育委員会。日本道路公団。(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1992
- (25) 廣瀬常雄編『西村遺跡Ⅲ-国道32号綾南バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』香川県教育委員会 1982
- (26) 廣瀬常雄編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第10冊金蔵寺下

所遺跡西碑殿遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1994

- (27) 藤好史郎「サヌカイトの材質について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ大浦遺跡』本州四国連絡橋公団・香川県教育委員会 1984
- (28) 以下の説明の中で、「石核整形」「打面調整」「作業面調整」という用語を使用している。「打面調整」は山形稜線をもつ打面の作出を目的としたもので、「作業面調整」は石核幅一杯の目的剥片を得るために作業面の角度を調整するためのものと規定する。「石核整形」はそれらを包括し、変形した石核の補正や打面と作業面が特定できない個体に対しても使用する。
- (29) 松藤和人「再び”瀬戸内技法”について」『二上山・桜ヶ丘遺跡－第1地点の調査』奈良県立橿原考古学研究所 1979
- (30) 「瀬戸内技法」はその定義に諸説があるが、ここでは石核幅一杯の底面を有する横長剥片を、適宜打面調整を主とする石核整形を加えながら、連続・断続的に複数枚剥取する意図を看取できる製品素材生産の工程を示すものとした。
- (31) 香川県教育委員会『国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概報』1987
- (32) 直井武久『丸亀の歴史散歩』1982
- (33) 金毘羅宮蔵
- (34) 個人蔵。香川県『香川県史第10巻近世史料2』1987
- (35) 善通寺市金倉寺所蔵。香川県『香川県史第10巻近世史料2』1987
- (36) 香川県香川用水記念館蔵。香川県『香川県史第10巻近世史料2』1987
- (37) 丸亀市宮内忠敬氏にご教示を得た。
- (38) 松原秀明「第三節九亀と金毘羅」『新編丸亀市史2近世編』1994
- (39) 個人蔵。『新編丸亀市史4史料編』1994
- (40) 岡俊二「第5節天保期宇多津・坂出・金毘羅打ちこわしと丸亀」『新編丸亀市史2近世編』1994
- (41) 「坂出打ちこわし一件」「金比羅打ちこわし一件」『香川県史第9巻近世史料1』1987
- (42) 個人蔵。香川県『香川県史第9巻近世史料1』1987
- (43) 満濃町久留嶋通義氏が銅製原版所蔵されており、その写しを第107図に掲載した。
- (44) 大橋康二「国内市場の開拓」『有田町史古窯編』有田市P88



- (45) 井汲隆夫「第3節やきものも分類表」東京都建設局・新宿区内藤町遺跡調査会『内藤町遺跡第Ⅱ分冊遺物編』1993
- (46) 三田市教育委員会社会教育課「三田焼最後の陶工」三田市教育委員会『ミニミニ企画展パンフレット11』1995 丹波古陶館『篠山藩窯王地山焼』1979  
上記文献により19世紀前半期がもっとも多く窯が稼働した興隆期と判断した。
- (47) 大橋康二「肥前陶磁の変遷と出土分布」九州陶磁文化館『国内出土の肥前陶磁』1984
- (48) 藤澤良祐「本業焼の研究(1)」瀬戸市歴史民俗資料館『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅵ』1987
- (49) (44)・(47)に同じ
- (50) (48)に同じ
- (51) (23)に同じ
- (52) 平野部でブロックが確認されたものとしては、中間西井坪遺跡(高松市)、中間東井坪遺跡(同市)、郡家田代遺跡(丸亀市)、川西北鍛冶屋遺跡(同市)等がある。
- (53) 金蔵寺下所遺跡(善通寺市)、郡家大林上遺跡(丸亀市)、西村遺跡(綾南町)等がある。
- (54) 佐藤竜馬編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第24冊郡家田代遺跡』香川県教育委員会・香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996
- (55) 大西義則・森下英治「中間西井坪遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成3年度』1992
- (56) 谷畑雅稔・信里芳紀「中間東井坪遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』香川県教育委員会・香川県埋蔵文化財調査センター 1997
- (57) 本書第5章の石材産地分析で郡家田代遺跡の資料も同時に分析を依頼した。三条黒島遺跡の主たる剥片類(普サヌ)がすべて「白峰」であるのに対して、郡家田代では「金山」などを含んでおり、必ずしも一元的な石材環境にはないようである。分析された「冠」産の石材は他に、消耗度の著しい横長剥片石核や、二側縁加工のナイフ形石器の石質に共通する。肉眼観察を踏まえた石材別の資料提示は今後の課題としたい。
- (58) 保坂康夫「第1節礫群および配石」『寺谷遺跡発掘調査報告書』平安博物館1980
- (59) 小泉信司「(1)旧石器時代」『日吉谷遺跡—四国縦貫自動車道』徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財調査研究センター 1994

- (60) 保坂康夫氏は、旧石器時代の礫群に関する地域的差違を検討する中で、西南日本を礫群が特に卓越する地域として想定されている。確かに九州地方や近畿地方、あるいは中国山地では礫群を伴う遺跡は多い。しかし、備讃瀬戸島嶼部のみならず讃岐地方低地部の単純ブロックを形成する遺跡においても礫群の存在はこれまで確認されていないという事実は、資料数が少ないとはいえ無視できない。元来礫群を保有しない独自性の強い領域集団であった可能性と、現在海中に没する備讃瀬戸平原部に礫群を保有する多数の遺跡が所在する可能性の両面から検討する必要がある。
- 保坂康夫「先土器時代の礫群の分布とその背景」『山梨考古学論集 I』1986
- (61) 徳島県埋蔵文化財調査研究センターの氏家敏之、原芳伸両氏に報告書掲載以外の剥片類の状況についてご教示を得た。
- (62) 藤好史郎編「与島西方遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 4』香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団1985
- (63) (8) に同じ
- (64) 丸亀市徳安氏採集品に赤色頁岩製の縦長剥片素材ナイフ形石器がある。
- (65) 信里芳紀・谷畑雅念「中間東井坪遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1997
- (66) 氏家敏之「吉野川流域の国府型ナイフ形石器－国府型ナイフ形石器を主体とした二遺跡のコントラスト」『徳島県埋蔵文化財センター研究紀要 真朱』第2号 1993
- (67) 山口卓也「旧石器時代における移動について」『ヒストリア』第101号 1983
- 山口卓也「二上山を中心とした石材の獲得」『瀬戸内技法とその時代』中・四国旧石器文化談話会 1994
- (68) 絹川一徳「五色台産サヌカイトを中心とした石器石材の獲得と瀬戸内技法」『瀬戸内技法とその時代』中・四国旧石器文化談話会 1994
- (69) (29) に同じ
- (70) 羽曳野市教育委員会『旧石器人のアトリエ』 1995
- (71) 盤状剥片を並列的に剥離する冠技法(山崎1976)や交互に剥離する櫃石島技法(間壁1968)などがその代表的なもので、比田井民子氏は求心的に剥離を行う技法を含めて、このような瀬戸内海沿岸地域に広く分布する技術を備讃瀬戸系横長剥片剥離技術として総称している。
- 山崎信二「中・四国における先土器文化の横剥技法」『考古学研究』22-3 1976

間壁霞子「香川県坂出市櫃石島採集の石器」『倉敷考古館研究集報』第4号 1968

比田井民子「東海地方、関東地方の横長剥片剥離技法」『瀬戸内技法とその時代』中・四国旧石器文化談話会 1994

- (72) 梅本健治「(3)B地点の調査」『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)』広島県教育委員会 1983

梅本氏の石核分類のⅡc類の一部に該当するものと思われる。

- (73) 大西義則・森下英治「中間西井坪遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成3年度』1992

提示した石器(第193図3)は、先端部の調整加工は細かく施されるものの、下半の大部分は粗い加工をそのまま残している。角錐状石器として分類可能ではあるが、調整加工の途中で折損していることから見ても、製品として完成する以前に遺棄されたと見るのが妥当であろう。三条黒島の類型2は、下半部の粗い加工面の形成過程に類似するものとする。

- (74) 山口卓也ほか編『板井寺ヶ谷遺跡－旧石器時代の調査－』兵庫県教育委員会 1991

- (75) 絹川一徳「近畿地方および中・四国地方のAT降灰以降の石器群」『石器文化研究5』石器文化研究会 1996

- (76) 松藤和人「舟底形石器の編年的予察」『旧石器考古学』

- (77) 稲田孝司編『恩原2遺跡』岡山大学文学部考古学研究室 1996

- (78) 松藤和人「大阪平野部における旧石器編年研究に寄せて」『旧石器考古学』44 1992

- (79) (72)と同じ

- (80) (65)と同じ

- (81) (26)と同じ

- (82) (69)と同じ

- (83) 佐藤宏之『日本旧石器文化の構造と進化』柏書房 1992

- (84) 角錐状石器が元来備讃瀬戸地域において瀬戸内技法の発現当初から組成し、「嵌入」として把握しない立場もある。藤好史郎氏は備讃瀬戸島嶼部与島西方遺跡A地点における出土状況と形態的類似性から国府型ナイフ形石器と角錐状石器は国府文化において補完的關係にあるとする。また、縦長剥片素材ナイフ形石器等の「外来起源」の器種が異質石材との結びつきが高いのに対して、角錐状石器は在地系石材を使用していることから、当該地域の国府文化の石器組成の一部をなした可能性を指摘しており、

事実、「嵌入」以前として確実に抽出できる瀬戸内技法単純資料は現段階できわめて限られている。

しかし、日吉谷遺跡以外にも、備讃瀬戸島嶼部の羽佐島遺跡では大量に出土したナイフ形石器のうち国府型ナイフ形石器の比率が比較的高く、また遺跡全体での角錐状石器の組成がきわめて低い点は、角錐状石器を一定量組成する与島西方の状況とは区別されるべきものであろう。

また、中間西井坪遺跡の東方約600mの地点で確認された中間東井坪遺跡の資料は、出土数は少ないもののファーストフレイク複数を含む瀬戸内技法関係の単純の組成を示しており、羽佐島や日吉谷に対比できる資料である。

絹川氏や氏家敏之氏が指摘するように角錐状石器が当該地域に見られる以前に、瀬戸内技法が卓越する段階が存在した可能性を考えた場合、角錐状石器の「嵌入」が具体的にどのようなものであったか興味深い点である。郡家田代、三条黒島、与島西方においては、藤好氏が指摘する角錐状石器や横長剥片素材ナイフ形石器と瀬戸内技法とが融合する状況がみられ、郡家田代では冠産石材の持ち込みも見られた。後に述べるように、冠遺跡群B地点と石器群の様相は類似しており、現段階ではそのような西部瀬戸内地方との接触の結果として「嵌入」という現象を見ることも必要と考える。

一方で、中間西井坪、与島西方C地点、板井寺ヶ谷上層などにおいて三稜尖頭器を含む極めて九州地方に近い様相をもつ一群もあり、単純に模式するのは困難である。ただ、中間西井坪では冠B地点と共通するナイフ形石器も多く、九州地方の直接的波及と考えるには躊躇を覚える。

また、西部瀬戸内地方においても冠B地点以前の状況が今一つ明らかになっていない点も不確定要素であり、今後の資料の増加が望まれる。

藤好史郎「備讃瀬戸におけるナイフ形石器文化終末期の様相」『旧石器考古学』38  
1989

渡部明夫編『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告1 羽佐島遺跡I』香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団 1985

絹川一徳 (72)文献

氏家敏之「中・四国におけるナイフ形石器文化後半期の小型ナイフ形石器の様相」『第13回中・四国旧石器文化談話会発表要旨』1996

(85) 秋山 忠「西村遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報』香川県教育委員会1979

沢井静芳・六車 功『一般国道32号線綾南バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 西村遺跡』香川県教育委員会 1980

廣瀬常雄ほか『一般国道32号線綾南バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 西村遺跡Ⅱ』香川県教育委員会 1981

廣瀬常雄ほか『一般国道32号線綾南バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 西村遺跡Ⅲ』香川県教育委員会 1982

渡部明夫「西村遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和57年度』香川県教育委員会 1983

大佐古直生『久米加石油ガソリンスタンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 西村遺跡』綾南町教育委員会 1984

佐藤竜馬「西村遺跡の再検討」『(財)香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅳ』(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996

# 圖 版

図版 1 (三条黒島遺跡)



調査前全景 (西より)

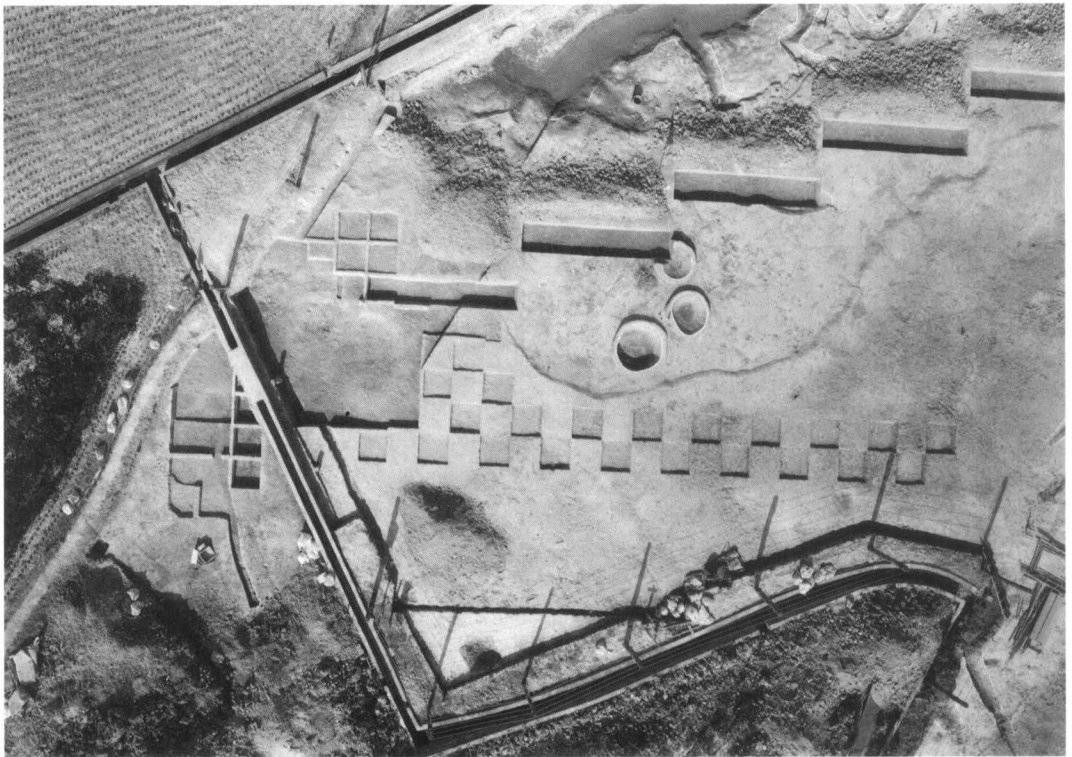


調査地遠景 (東より)

図版 2 (三条黒島遺跡)

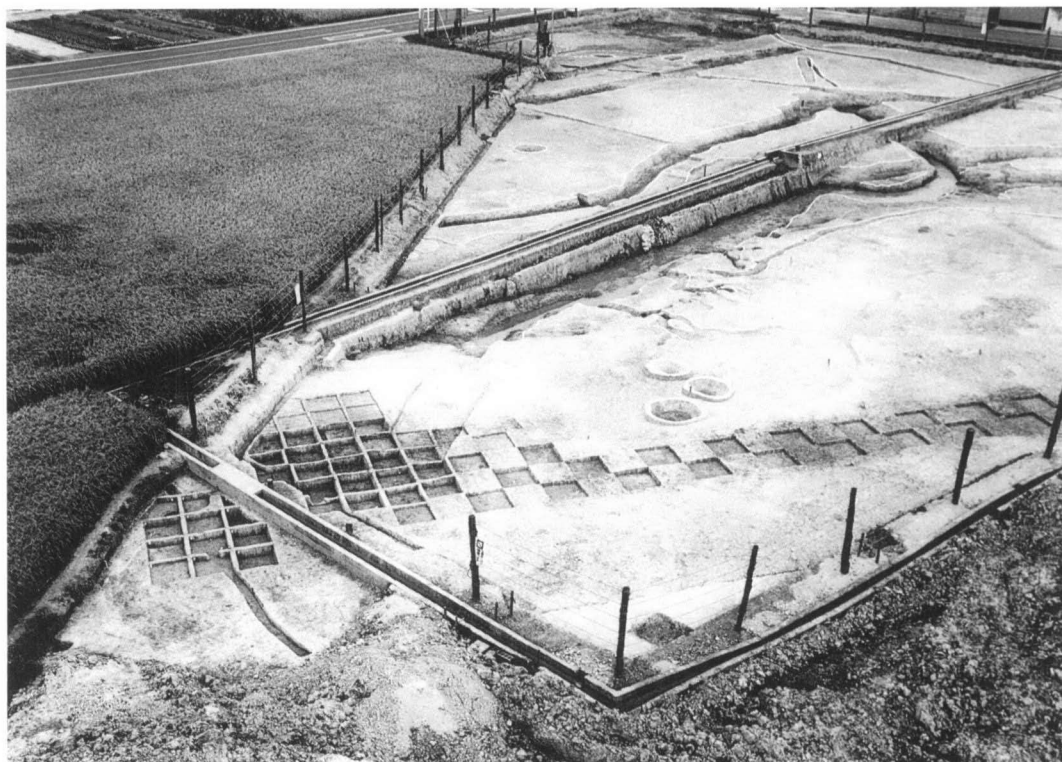


I II区完掘状況

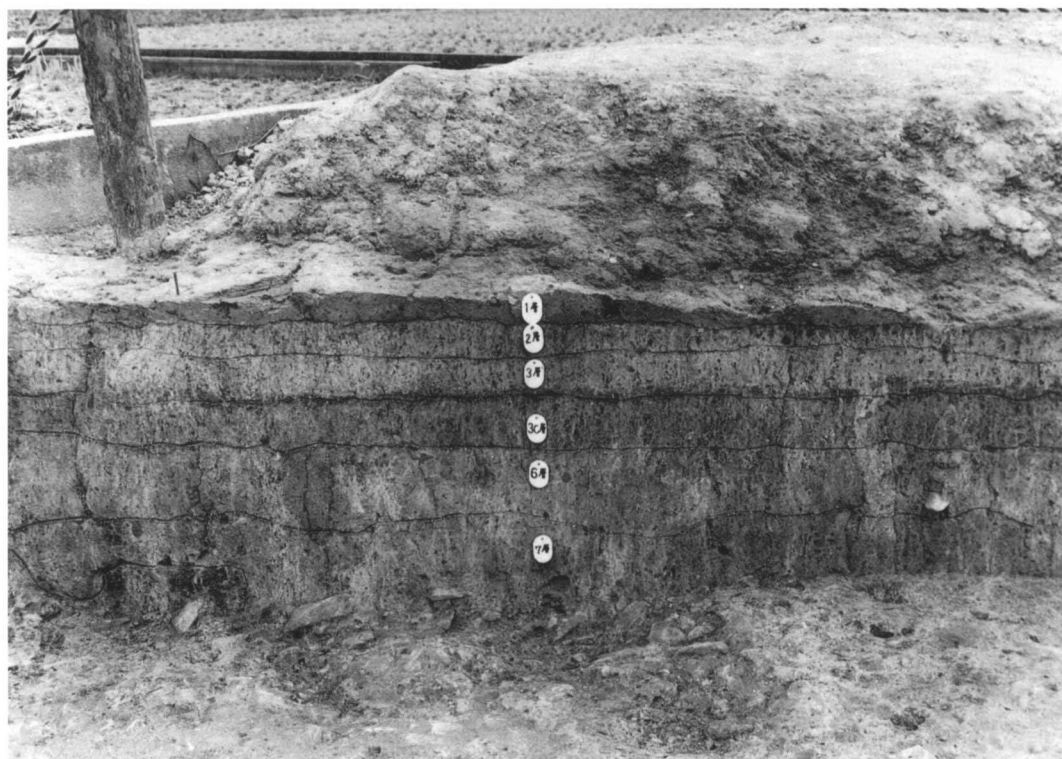


旧石器ブロック完掘状況





旧石器ブロック調査状況 (西より)



旧石器ブロック検出箇所土層断面

図版 4 (三条黒島遺跡)



石器出土状況 (6層)



石器出土状況 (7層)



角錐状石器出土状況



角錐状石器出土状況



石核等出土状況



削器出土状況

図版 6 (三条黒島遺跡)



I II区SD-01・03・04・05 (北より)



SD-01 断面 (南より)

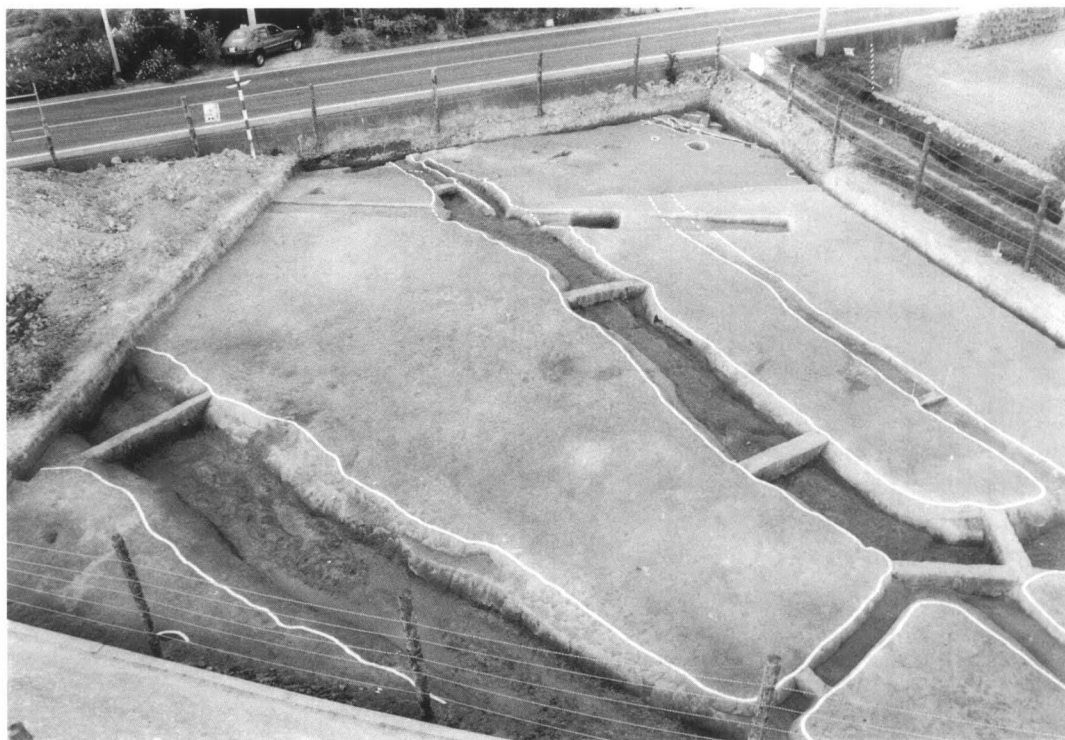


SD-01・SD-02 分岐部分

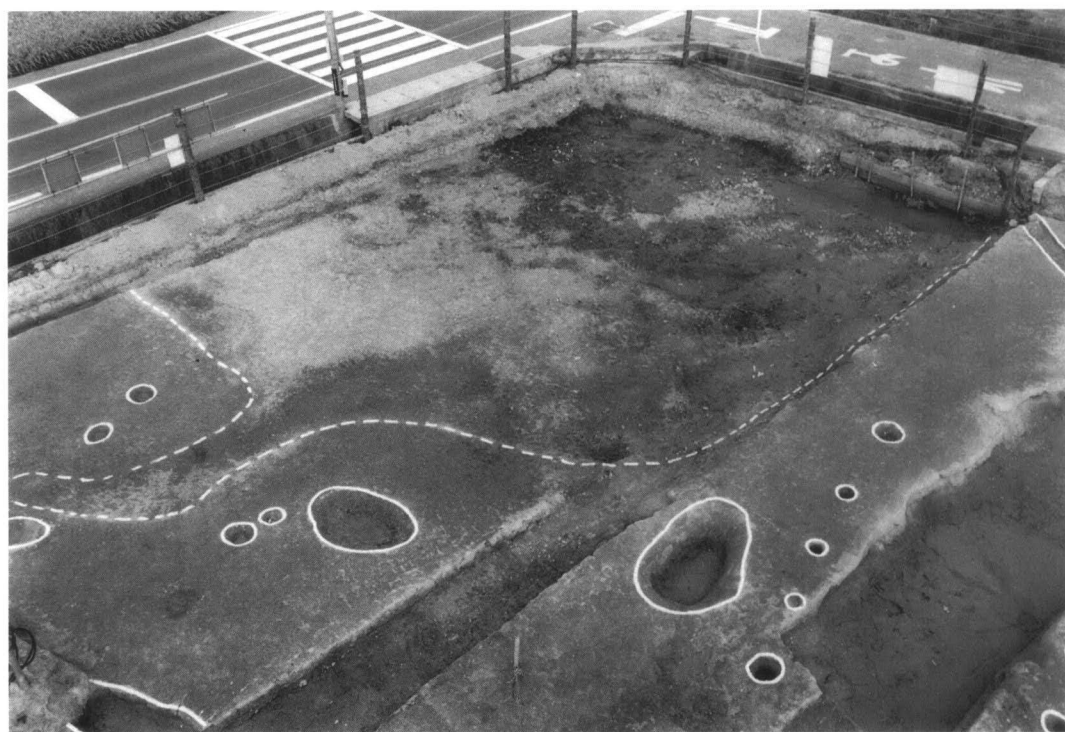


SD-01・02 (東より)

図版 8 (三条黒島遺跡)



Ⅲ区 SD-09・10 (東より)



ⅠⅡ区中世遺構と礫層面 (南より)

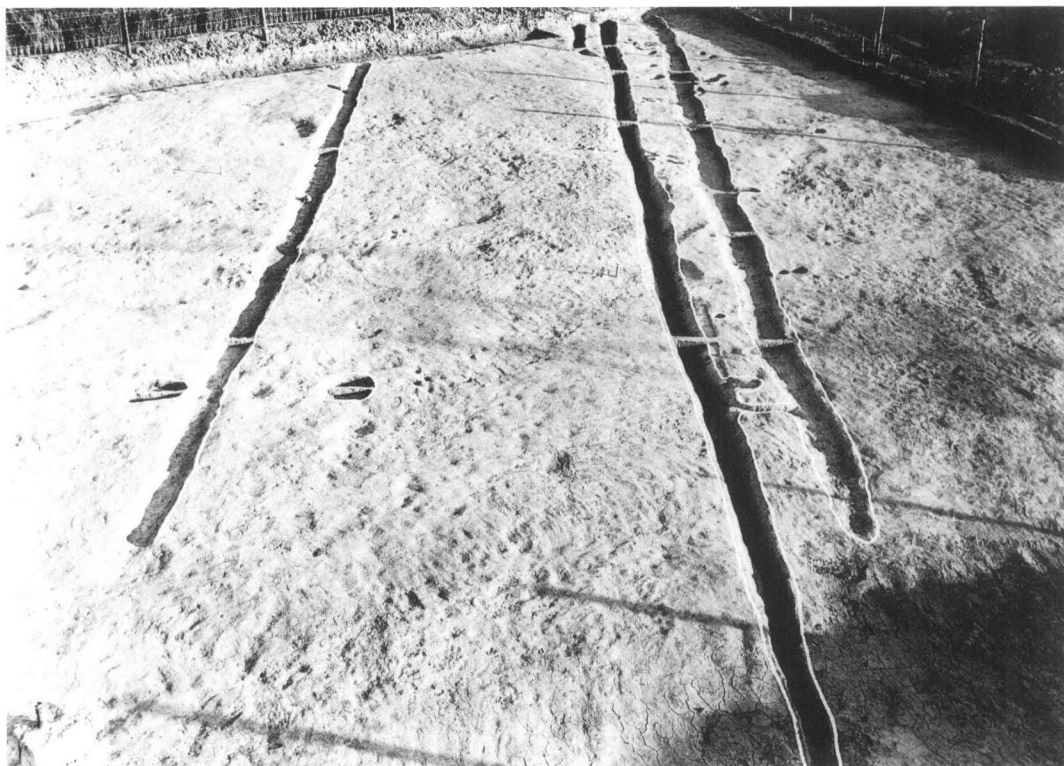


I II区 SB-01 (西より)

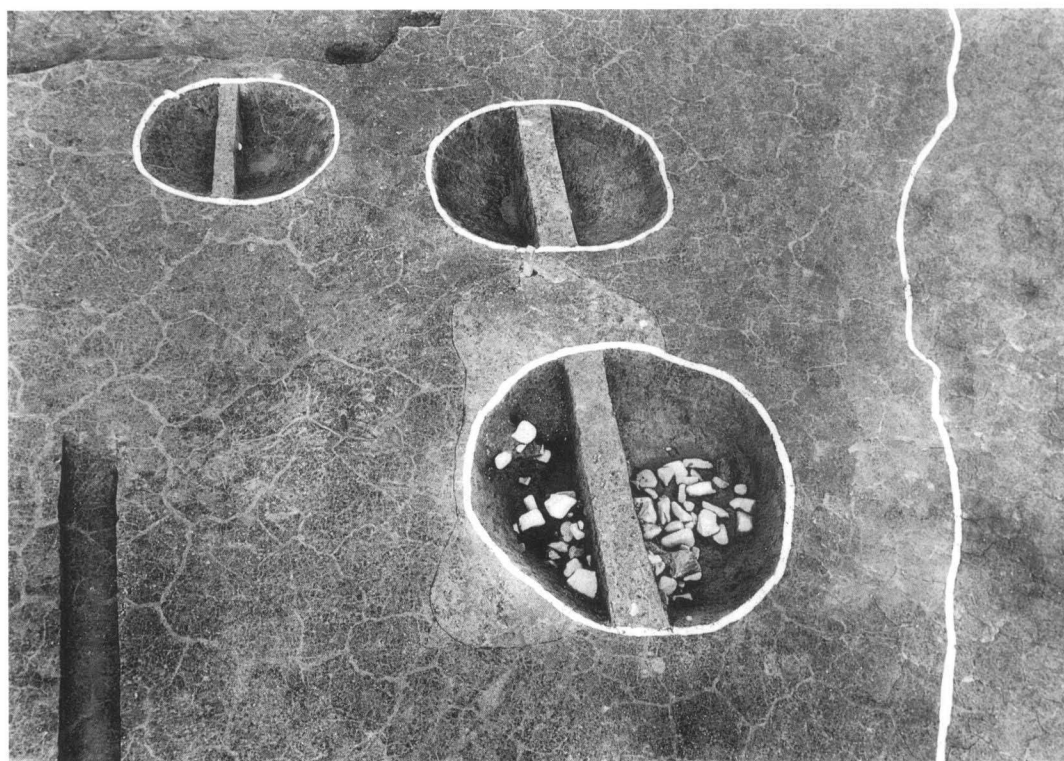


I II区 SK-02 (西より)

図版10 (三条黒島遺跡)



I II区 SD-11~13 (北より)



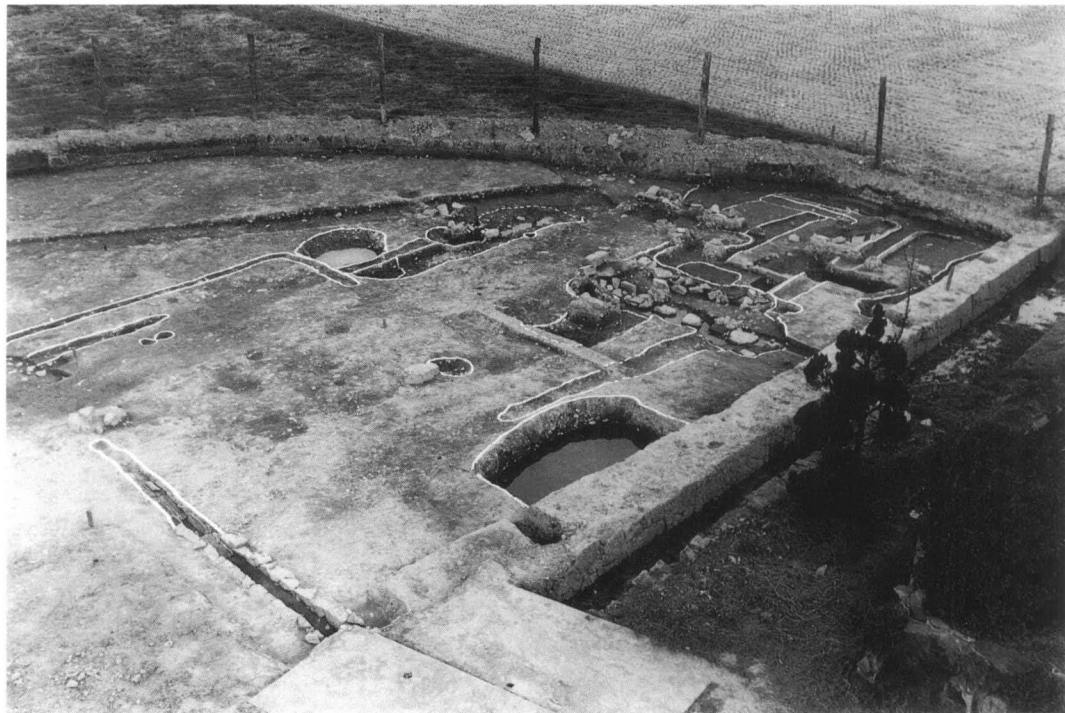
I II区 SK-06~08 (西より)





IV区 第1～第3段階遺構検出状況

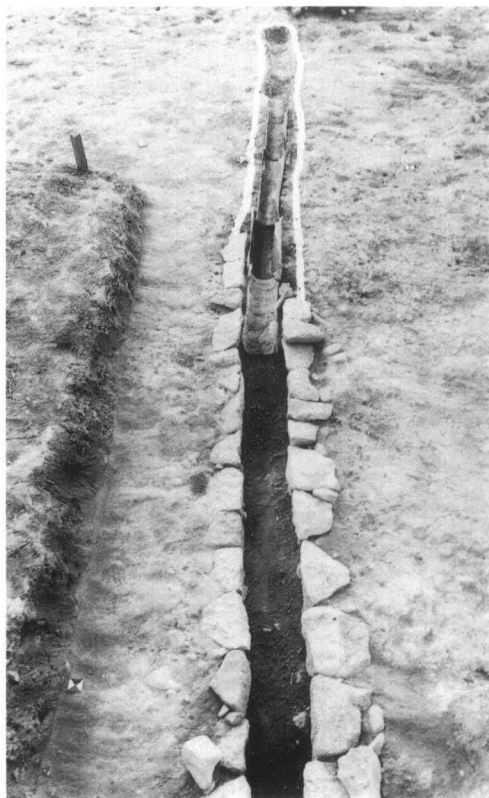
図版12 (三条黒島遺跡)



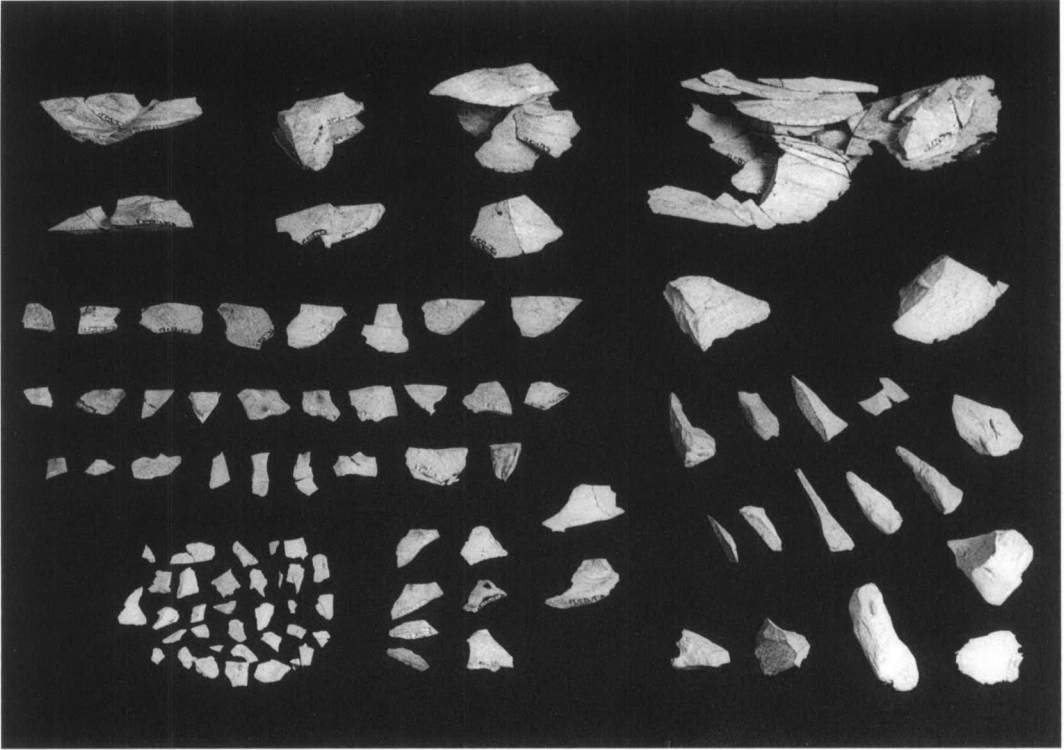
IV区 遺構検出状況



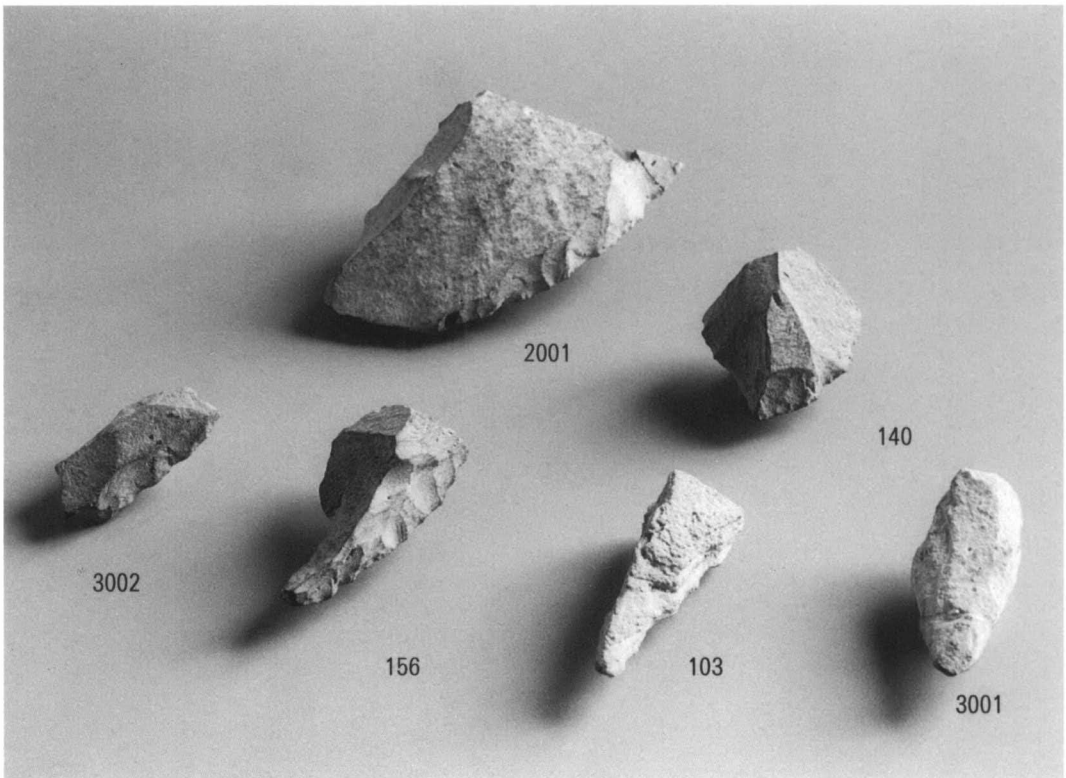
SX-07 (西東より)



SD-19 (東より)

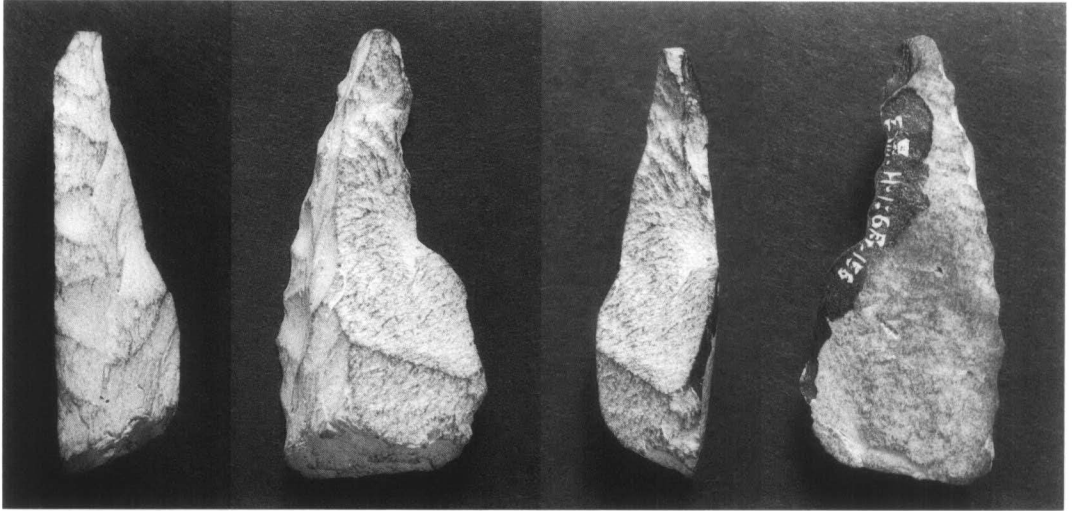


出土旧石器 (全点)

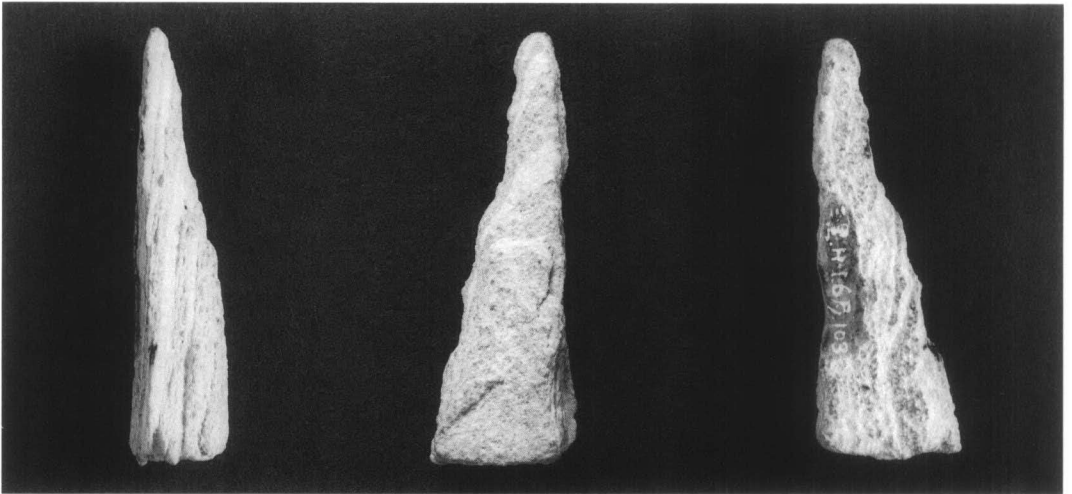


主要製品

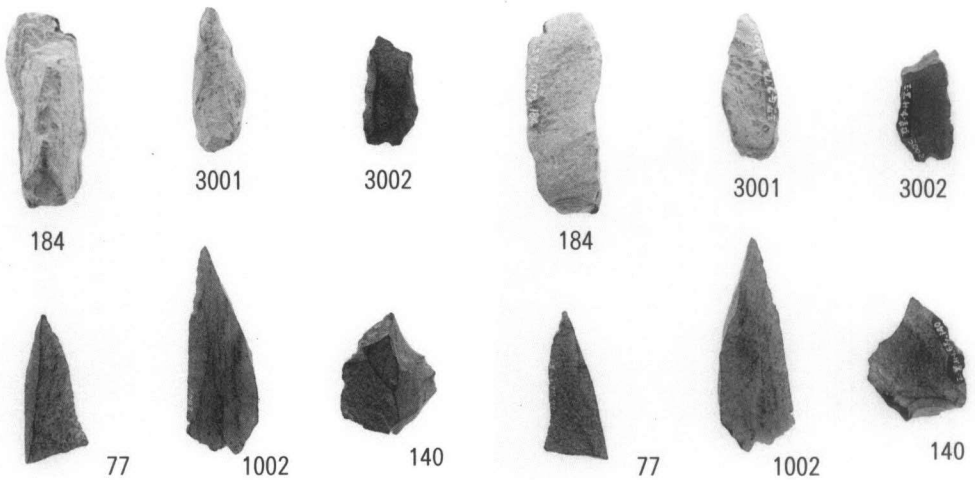
図版14 (三条黒島遺跡)



角錐状石器 (156)



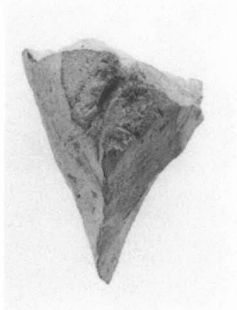
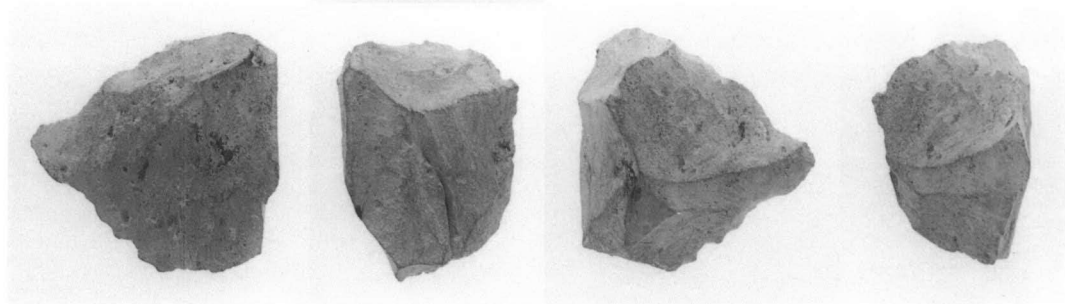
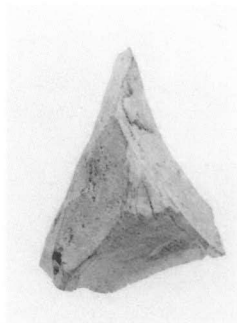
角錐状石器 (103)



角錐状石器・有加工痕剥片



石核 (153)

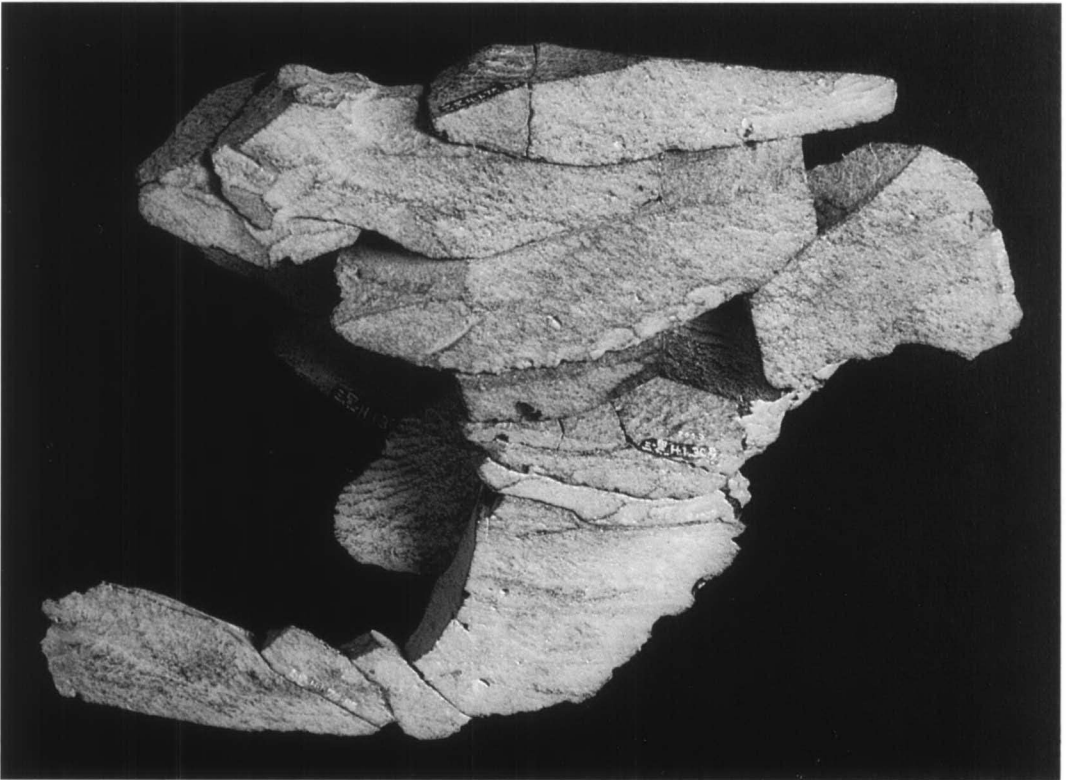
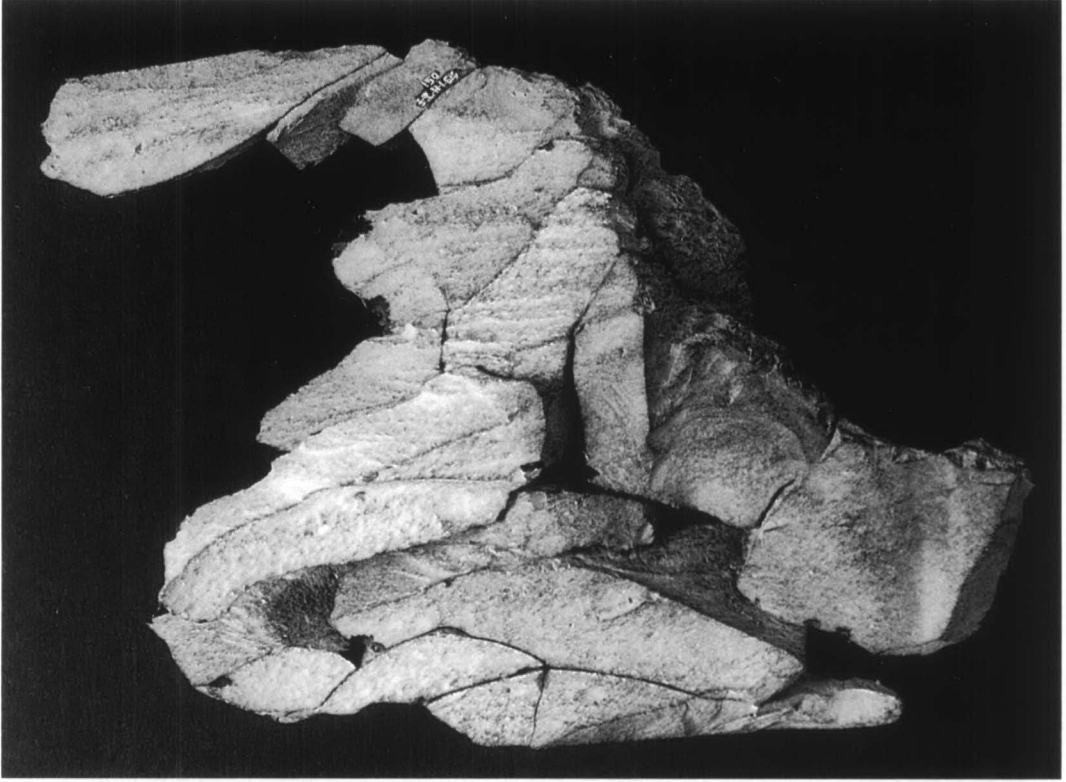


石核 (1001)

図版16 (三条黒島遺跡)

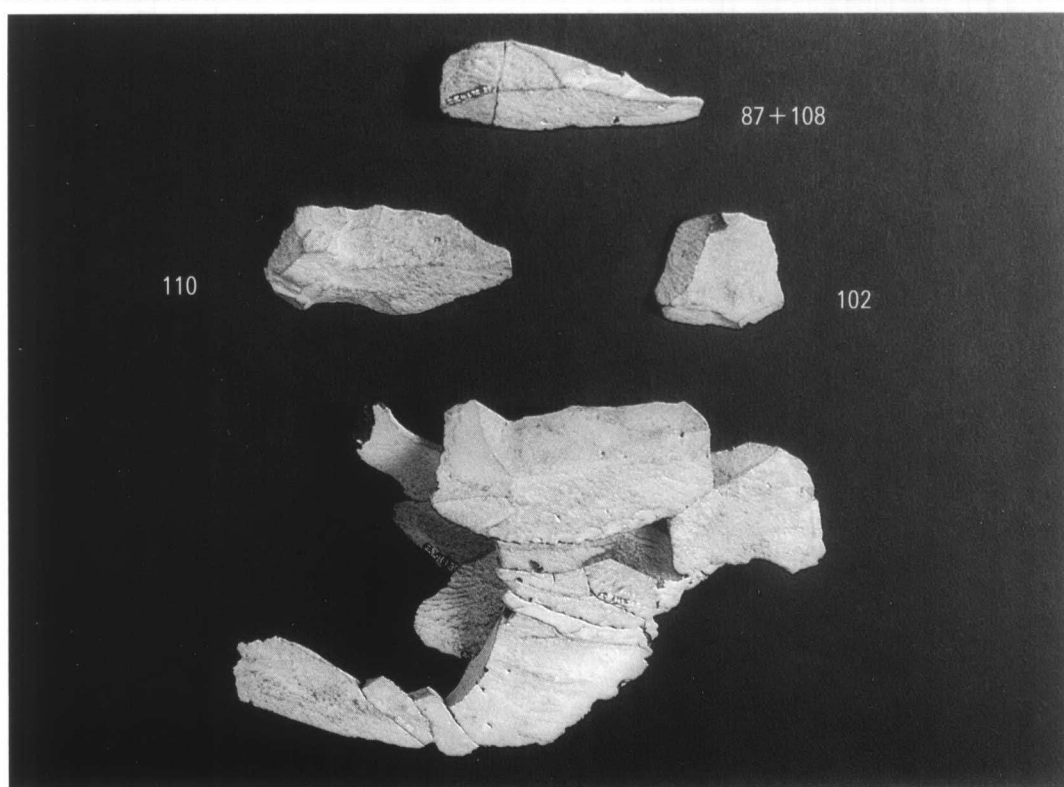
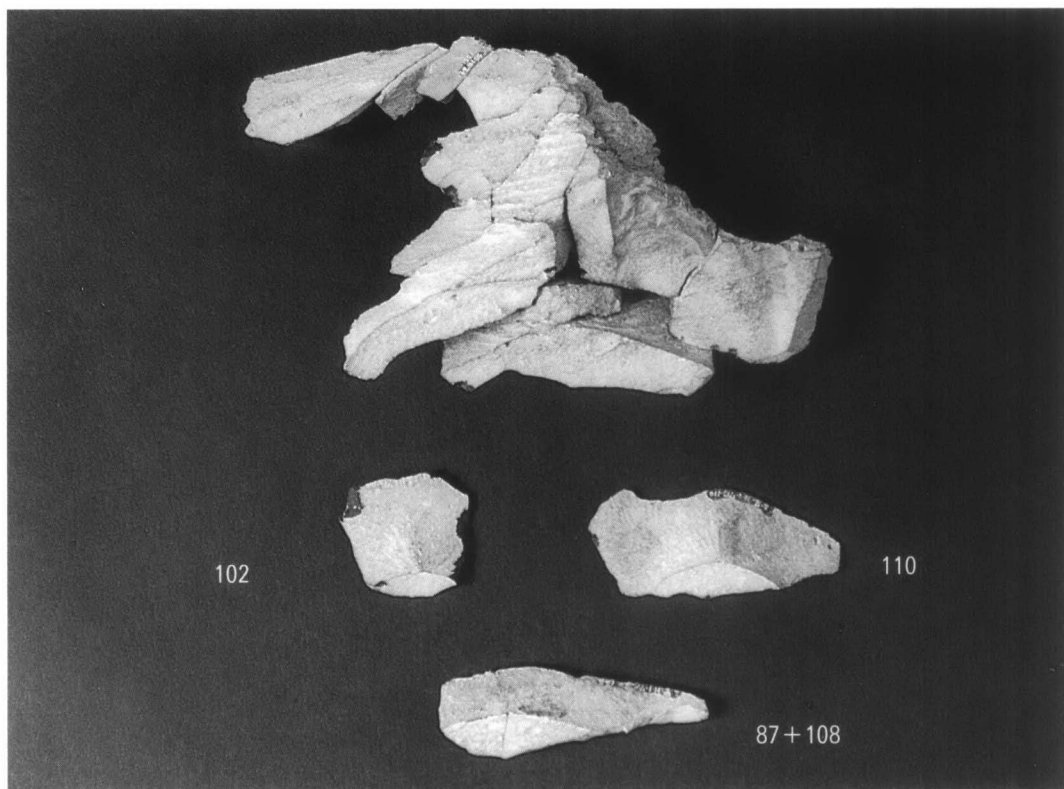


接合資料1 + 接合資料2の接合状態



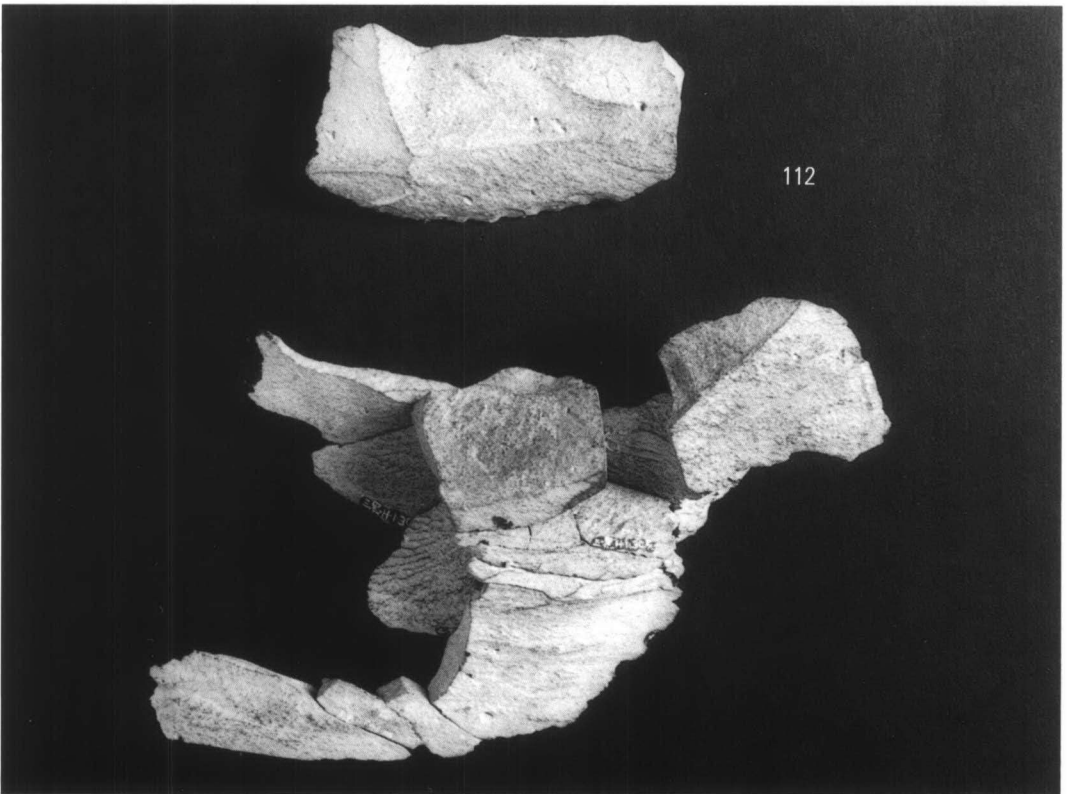
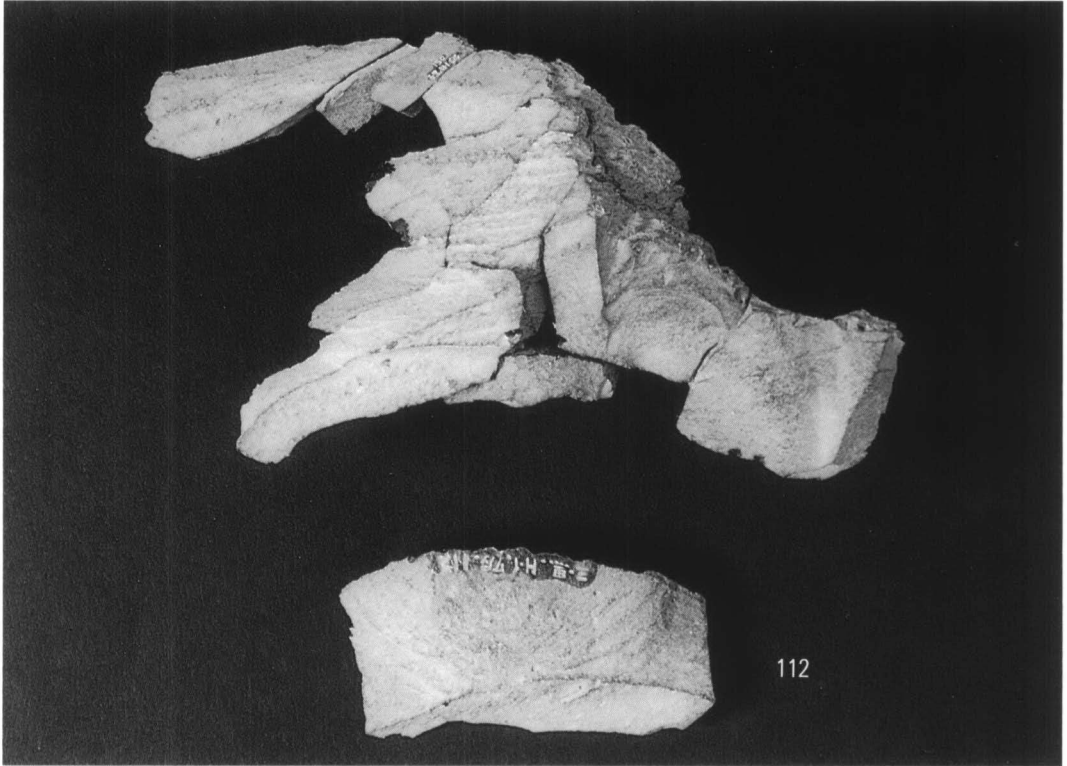
接合資料1 接合状態

図版18 (三条黒島遺跡)



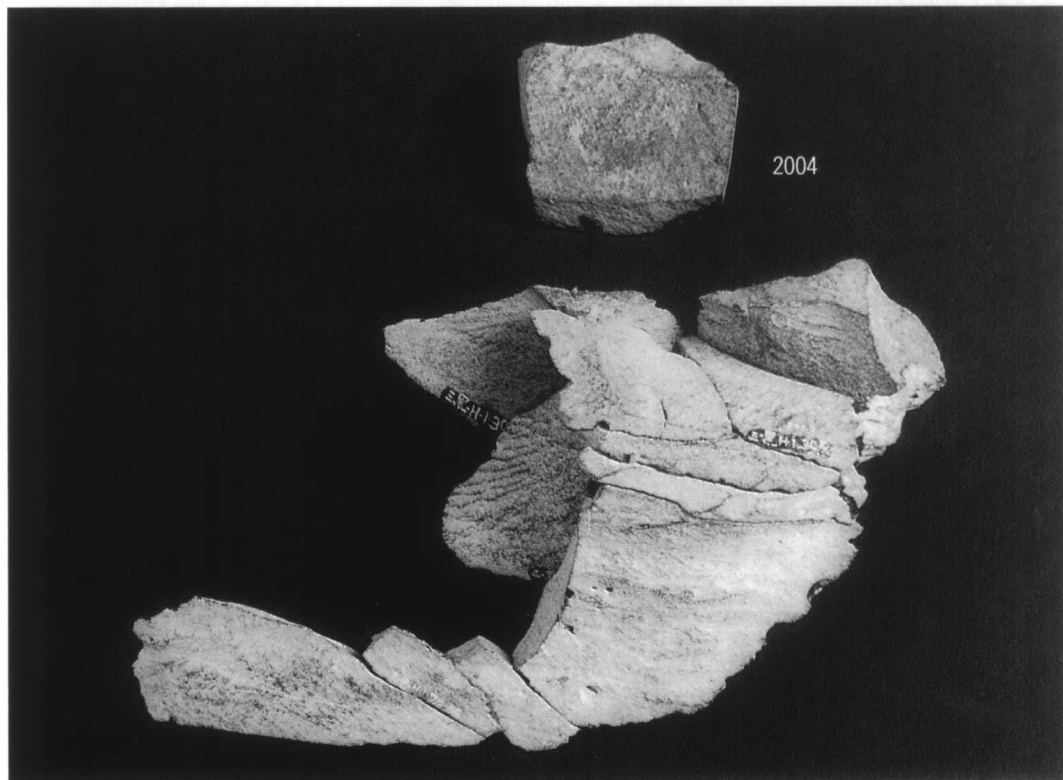
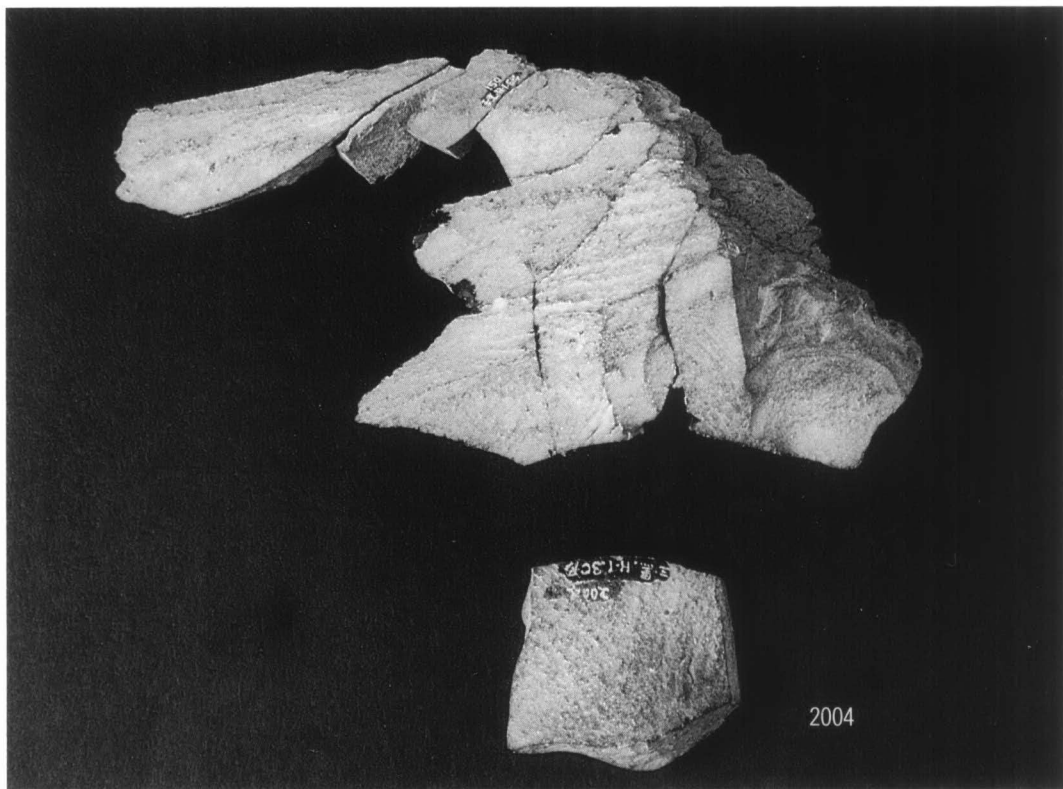
接合資料1 第1段階



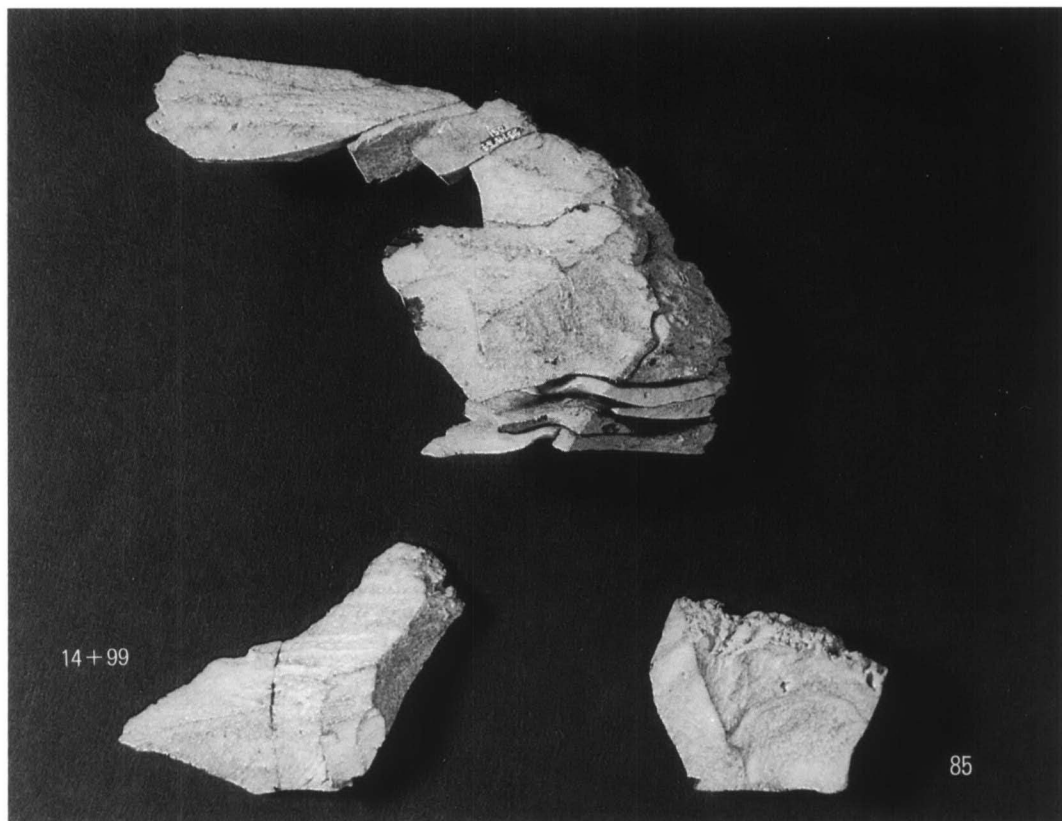


接合資料1 第1段階 削器(112)剥取

図版20 (三条黒島遺跡)

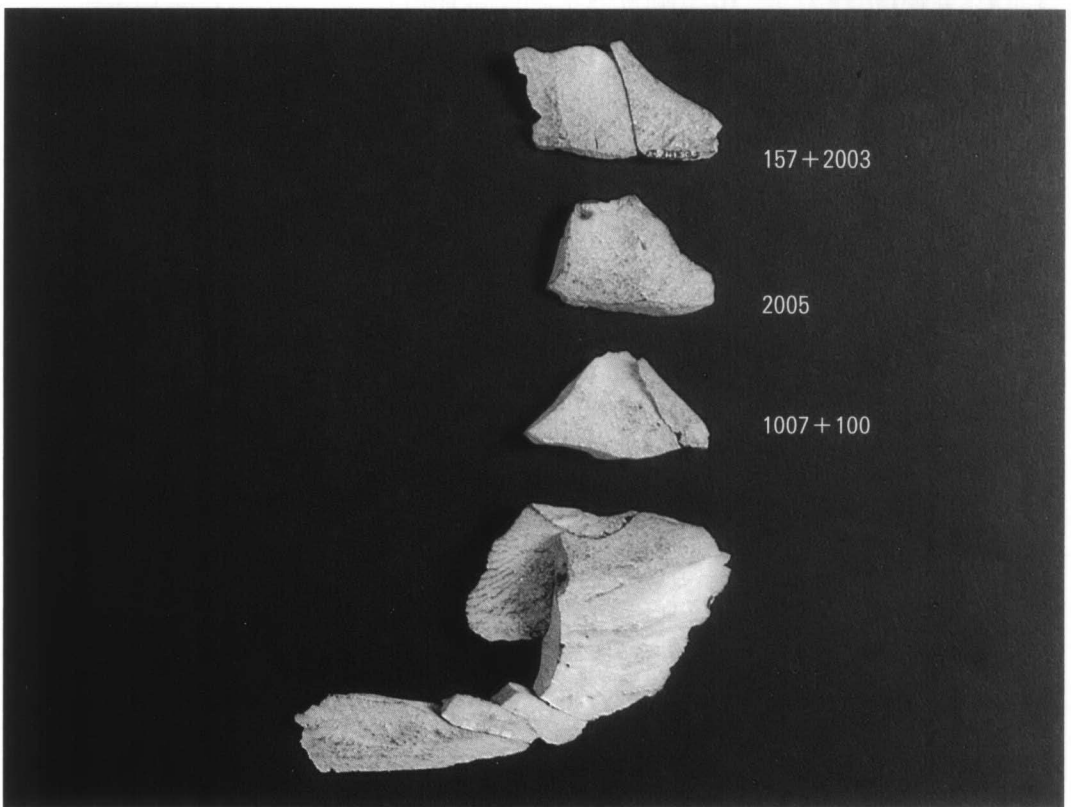
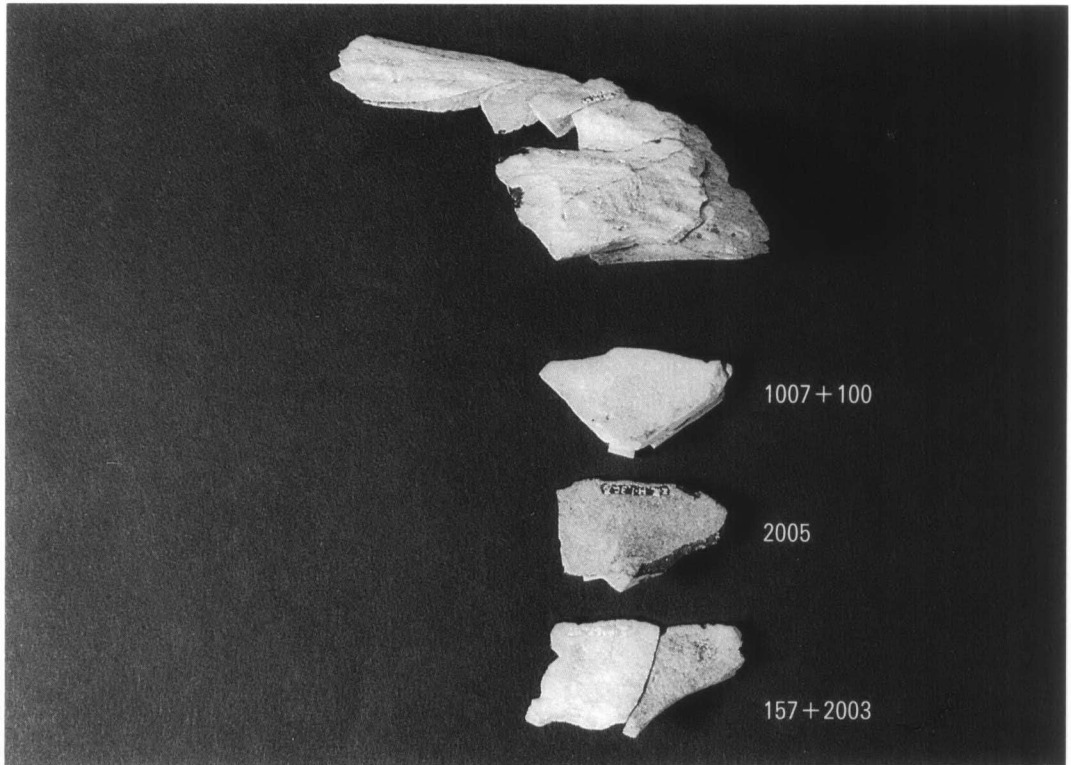


接合資料1 第2段階 横長剥片(2004)剥取

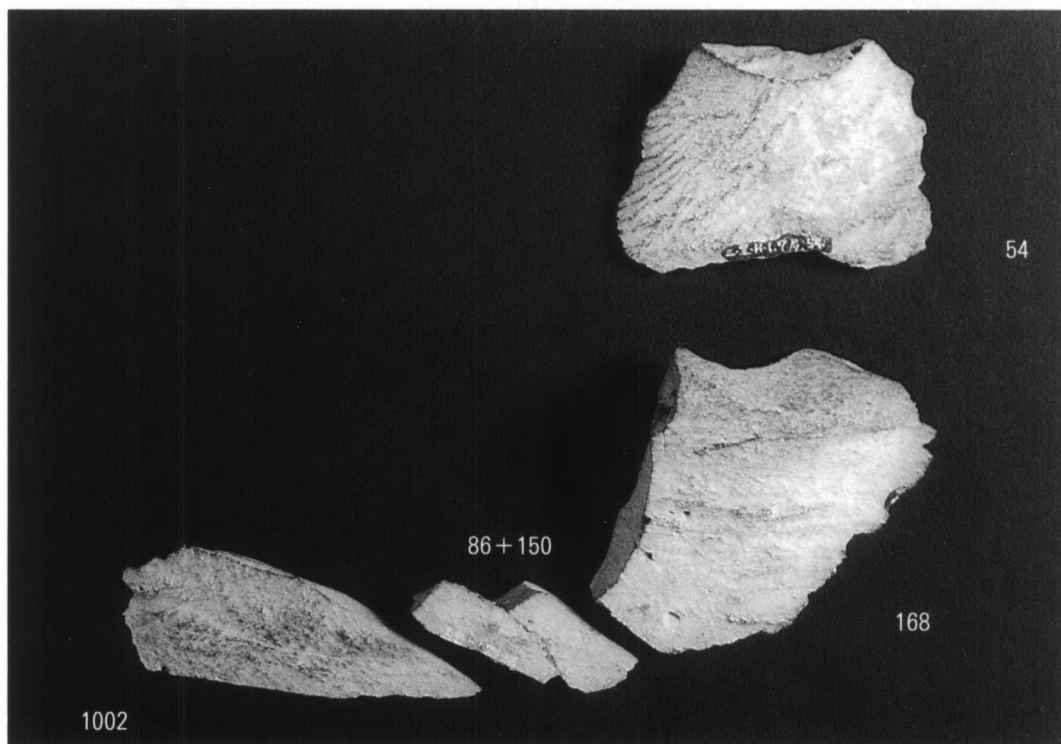
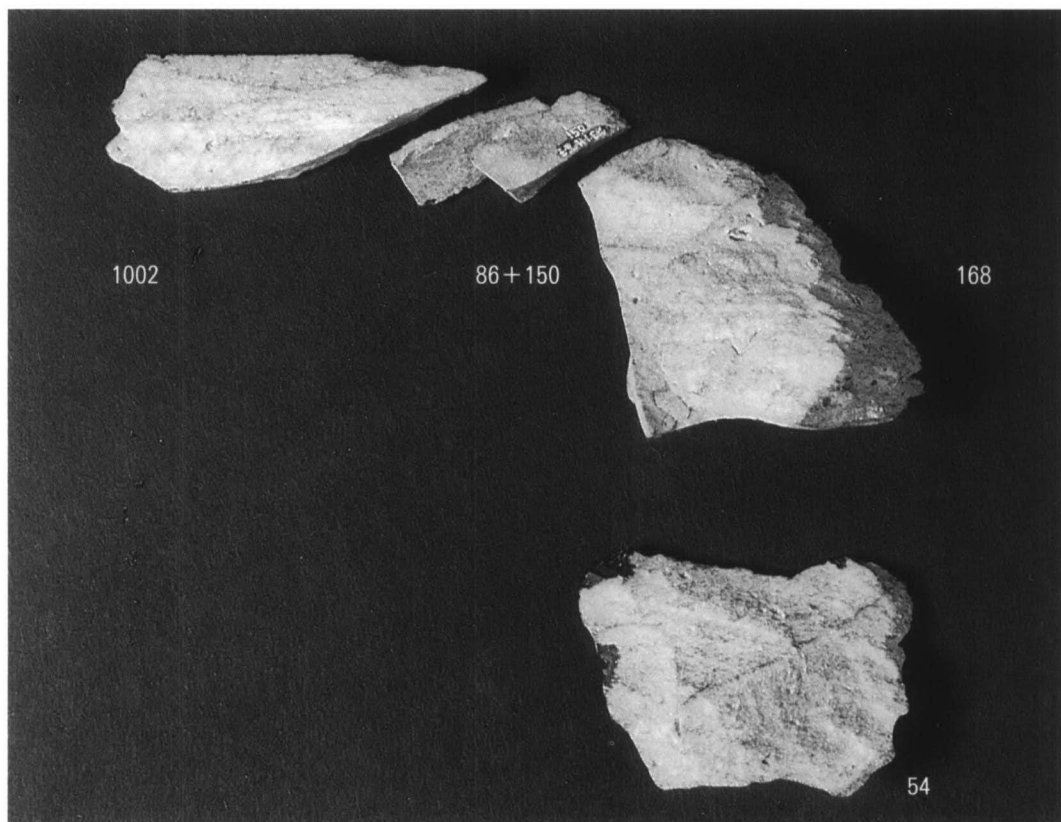


接合資料1 第2段階 打面調整 (14+99・85)

図版22 (三条黒島遺跡)

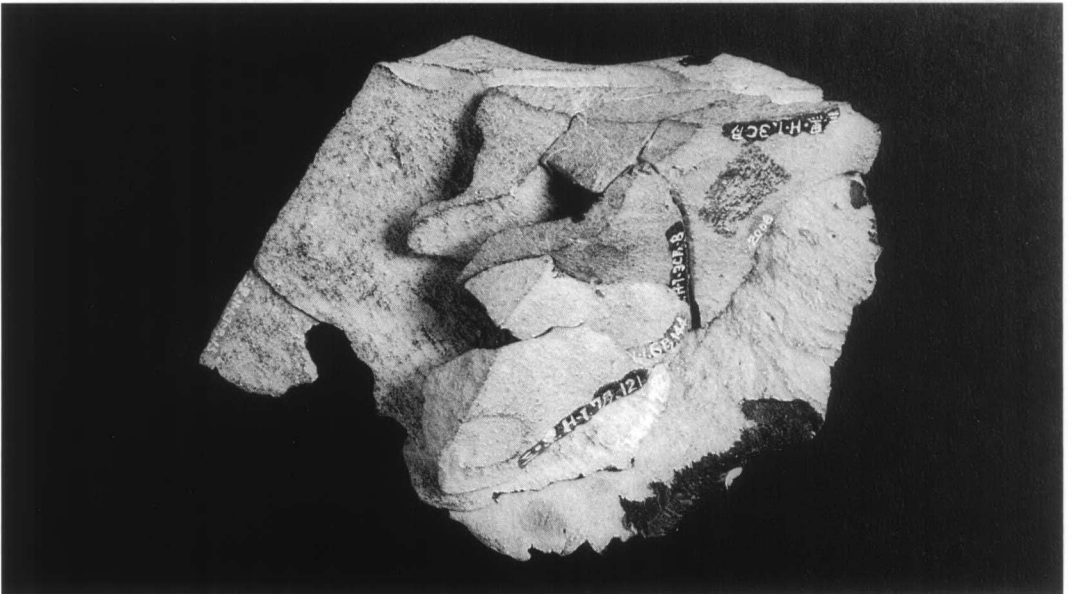
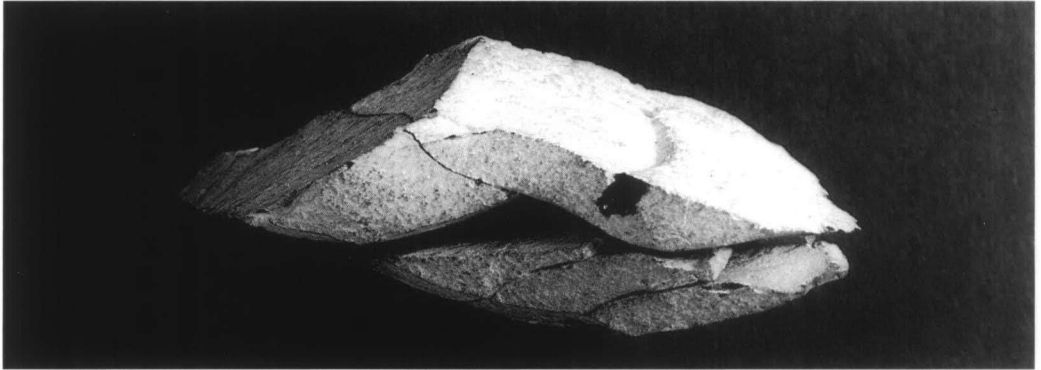
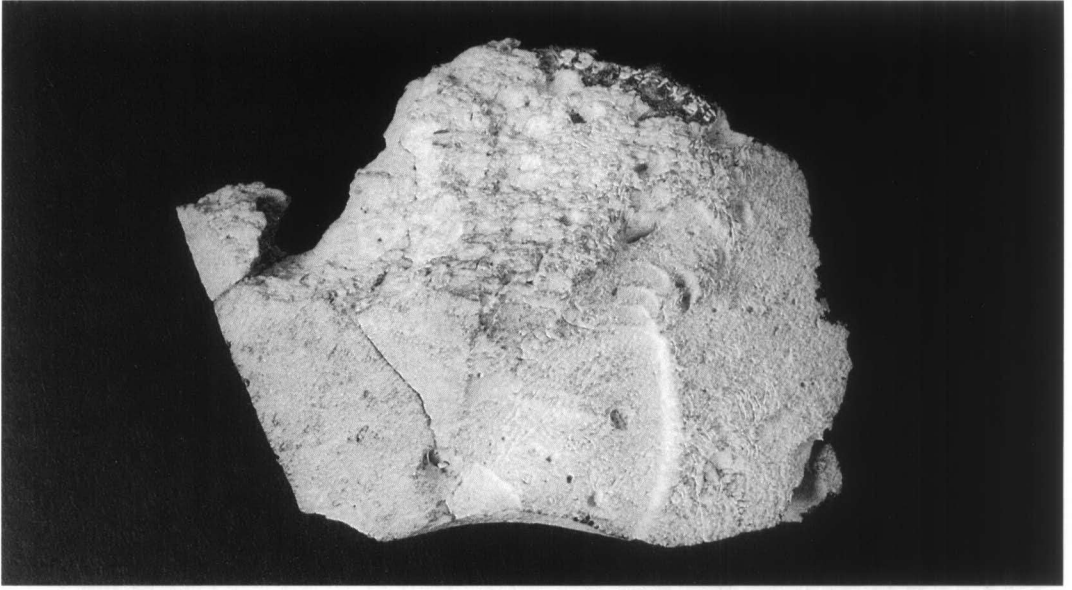


接合資料1 第2段階 横長剥片 (2003+157・2005・1007+100) 剥取

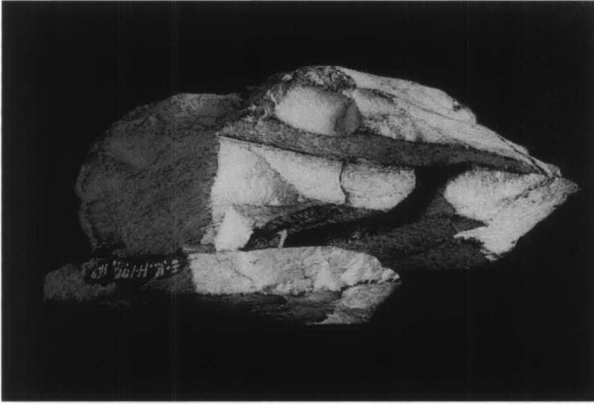


接合資料 1 打面調整 (54) ・石核 (168) ・剥片 (86+150) ・有加工痕剥片 (1002)

図版24 (三条黒島遺跡)

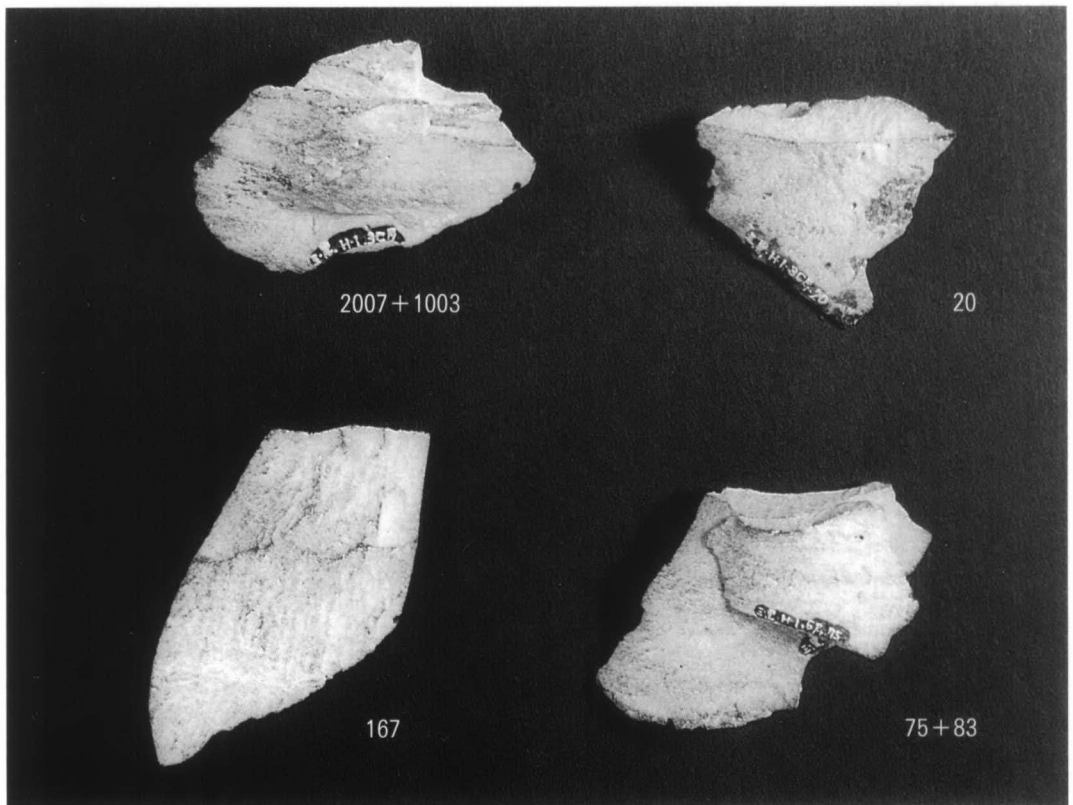
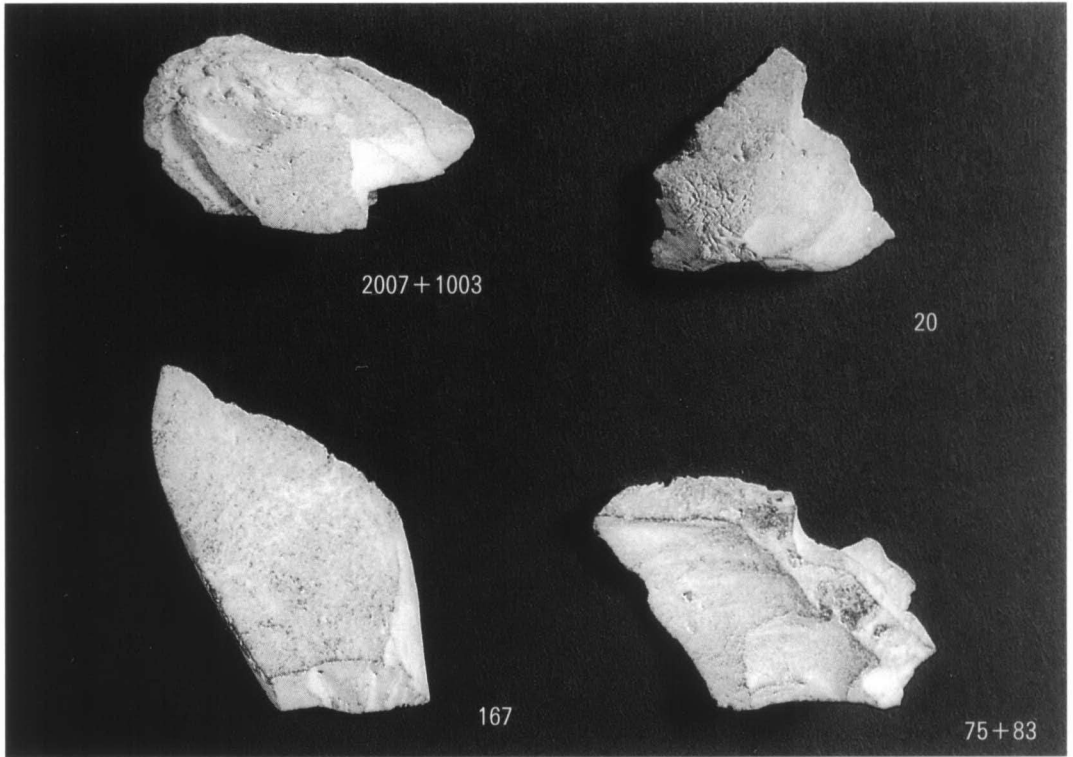


接合資料 2 接合状態



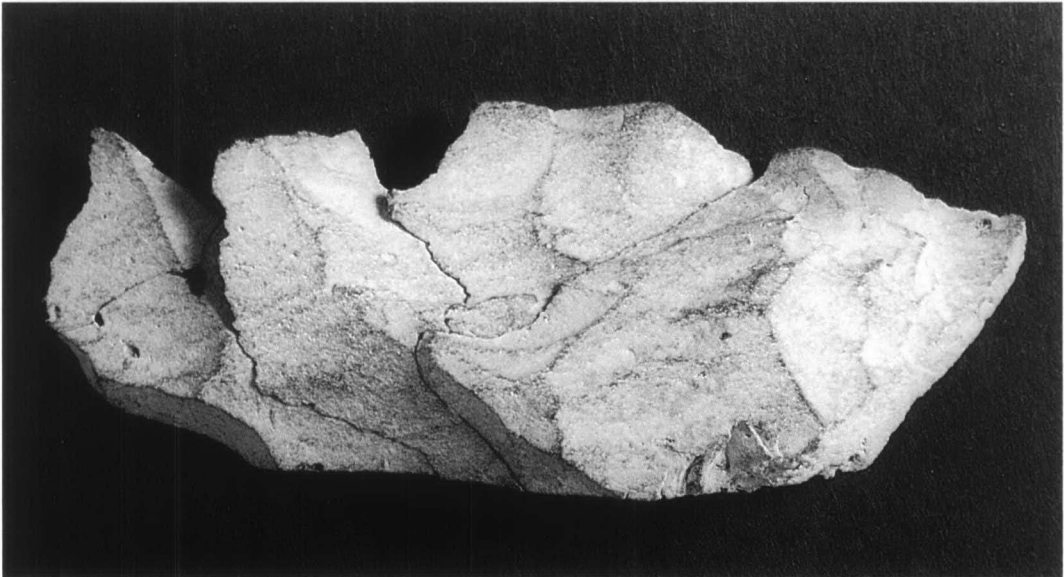
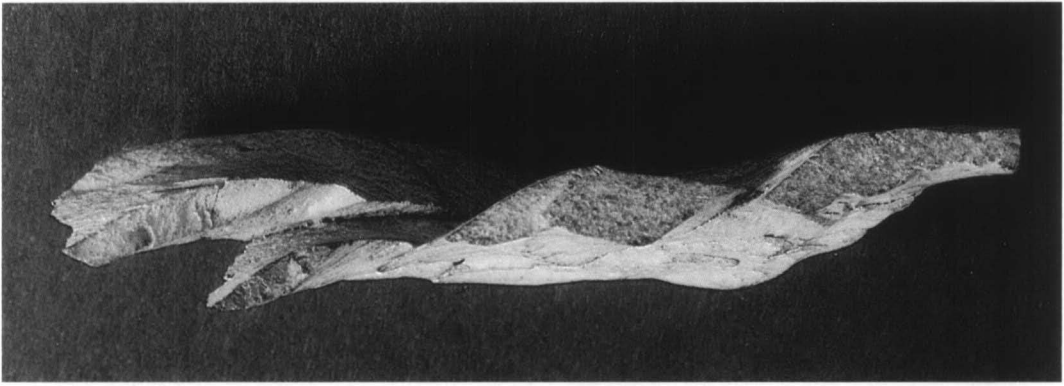
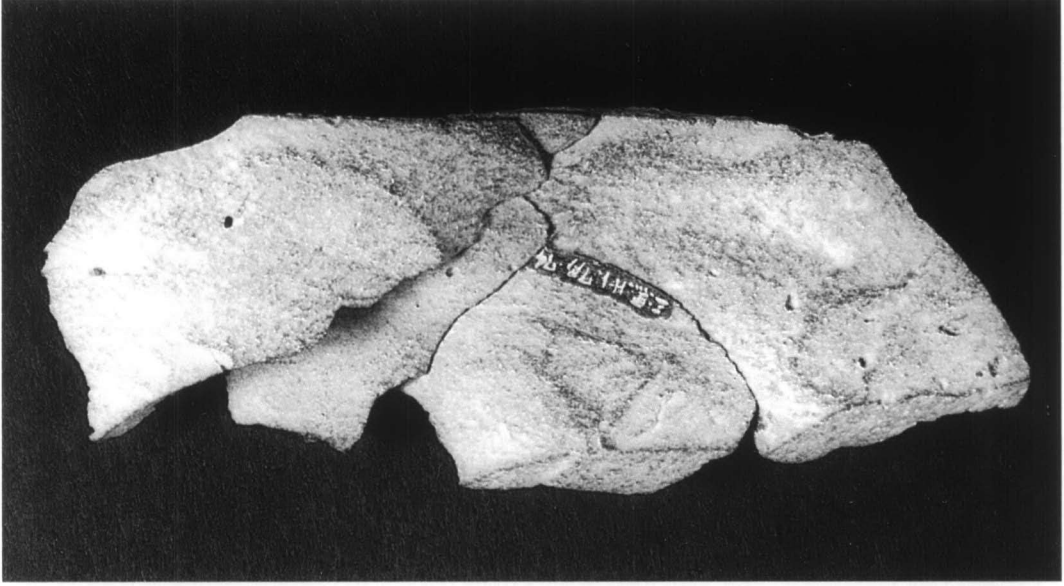
接合資料3 接合状態

図版26 (三条黒島遺跡)



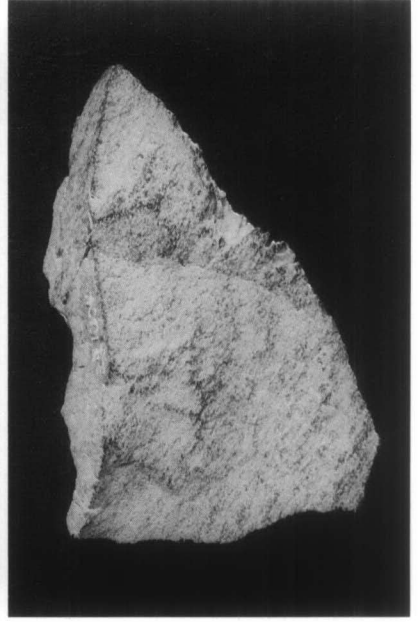
接合資料 3 構成剥片



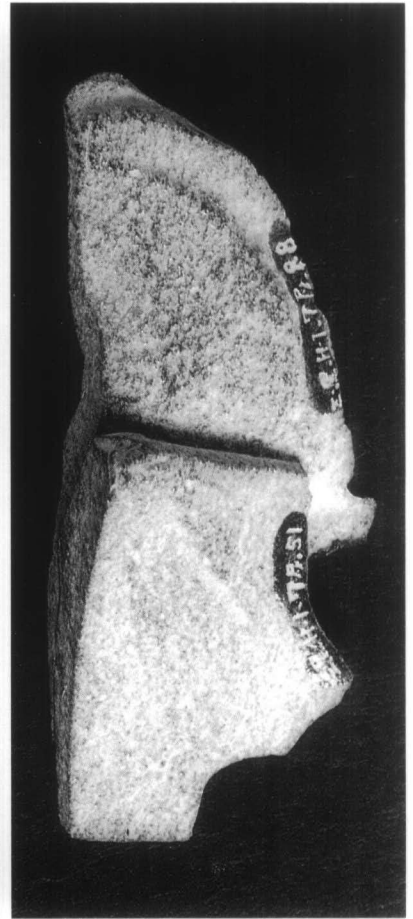
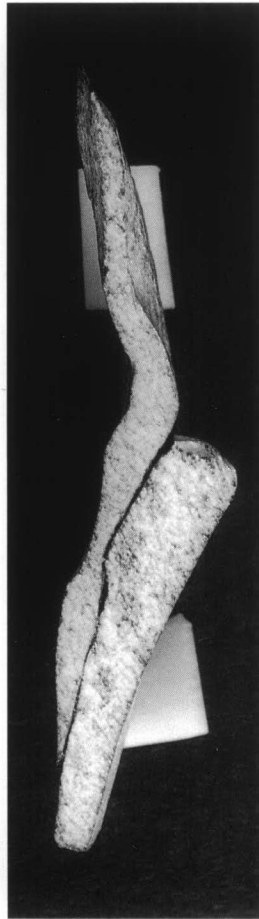


接合資料4 接合状態

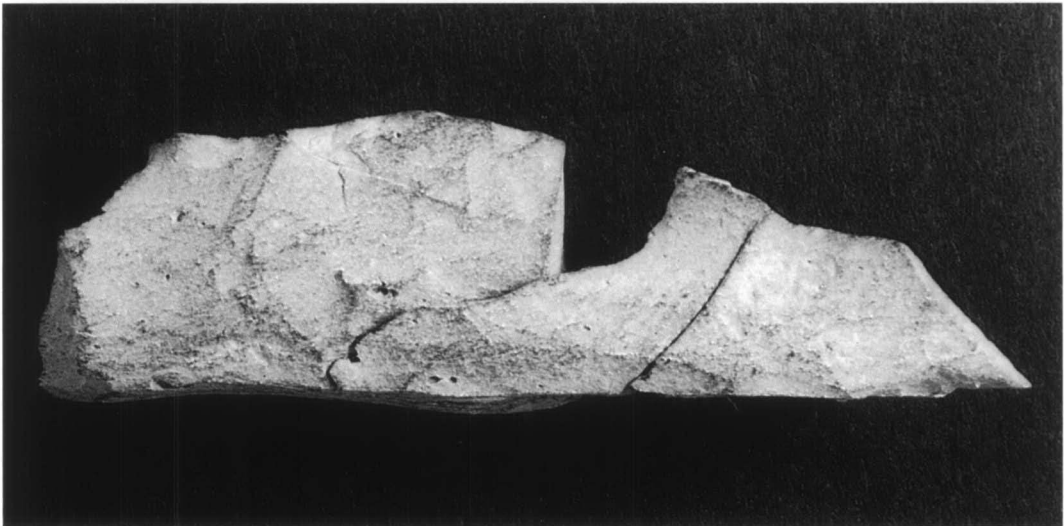
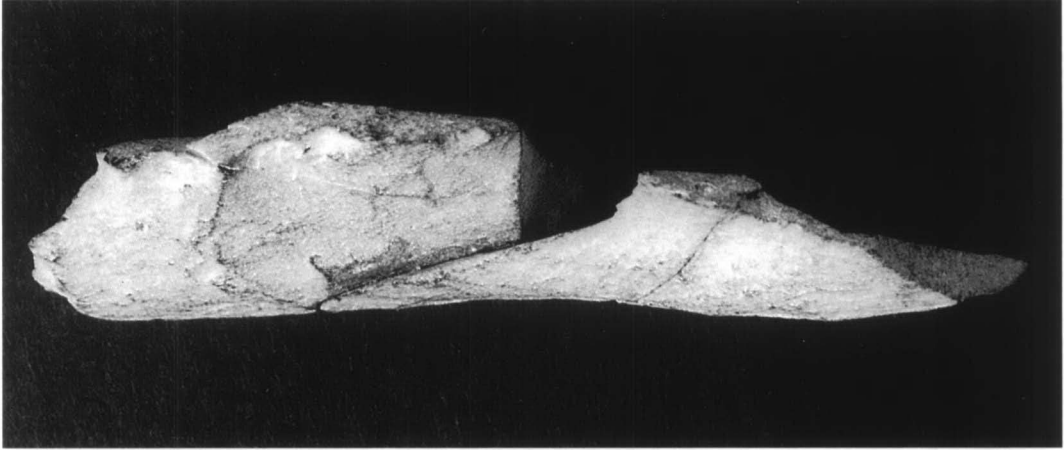
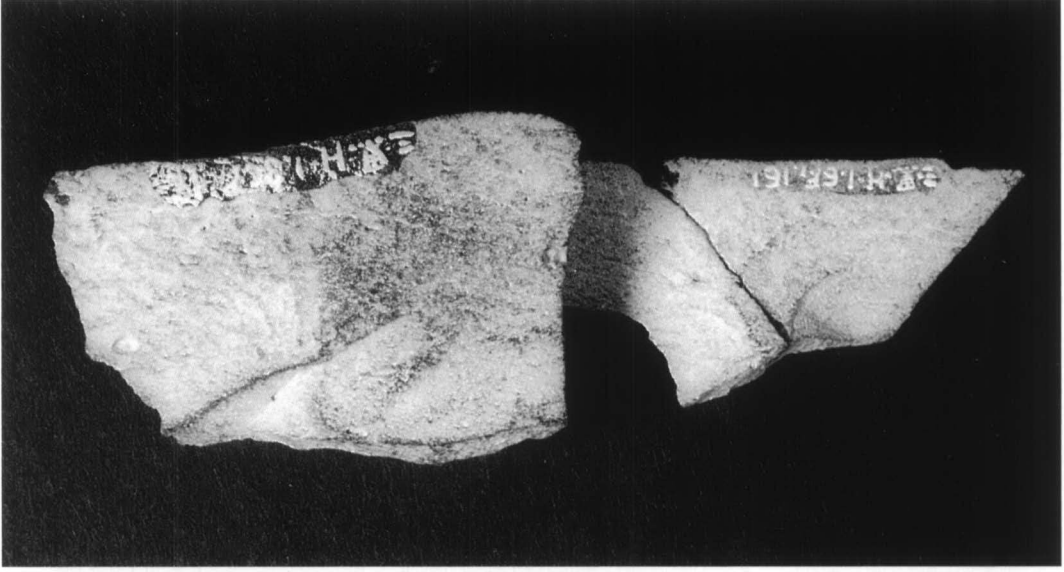
図版28 (三条黒島遺跡)



接合資料 5 接合状態

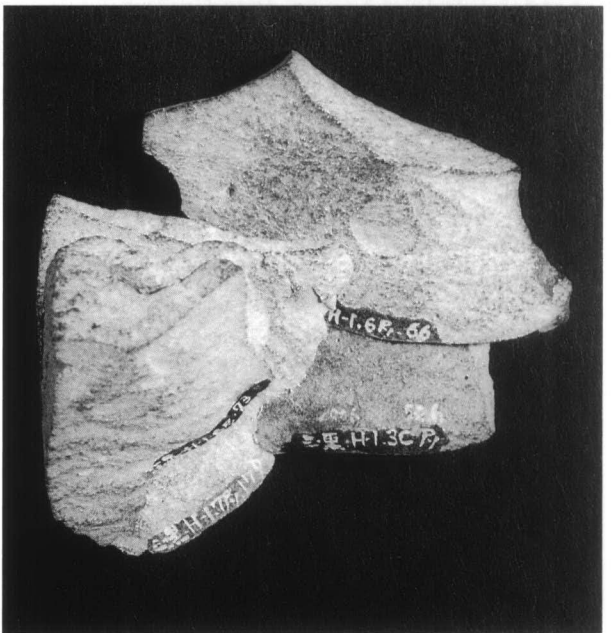
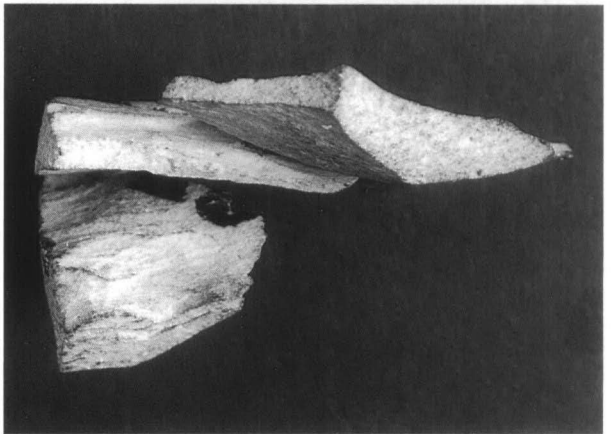
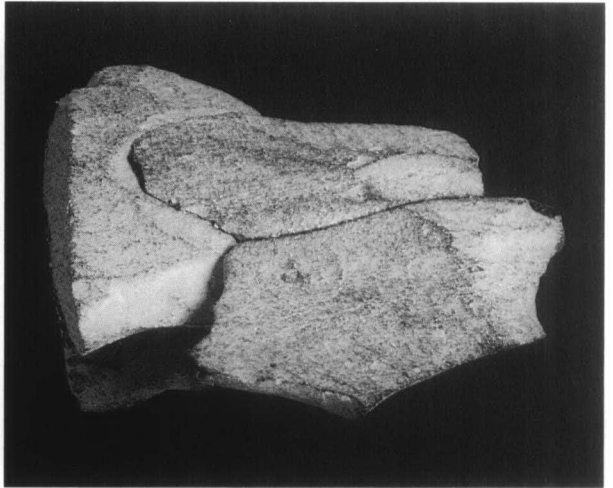
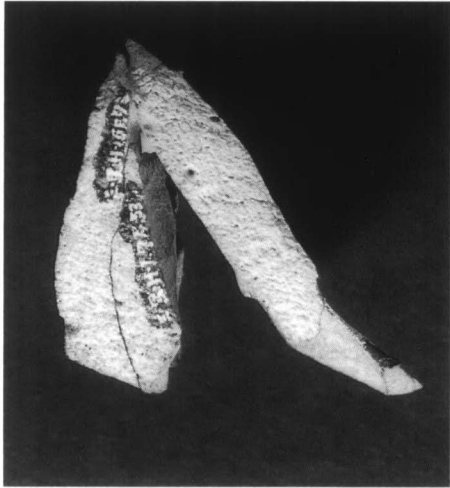


接合資料 7 接合状態

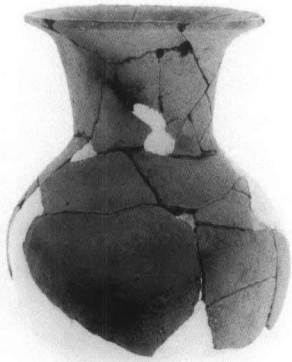


接合資料6 接合状態

図版30 (三条黒島遺跡)



接合資料 8 接合状態



222



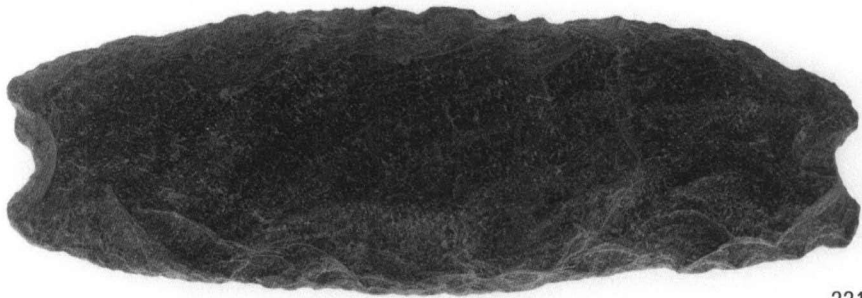
224



215



224



221 (a)

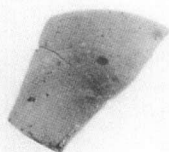


221 (b)

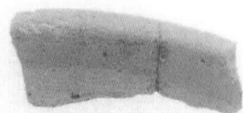
図版32 (三条黒島遺跡)



230



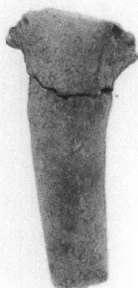
229



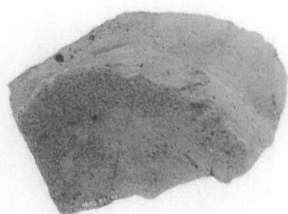
227



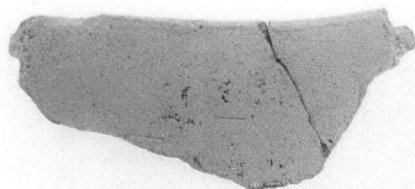
231



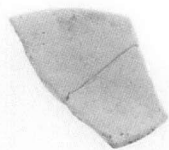
230



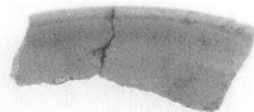
228



230



229



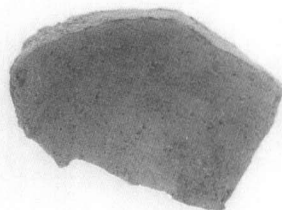
227



231



230



228



236



233



234



236



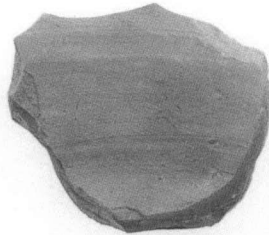
237



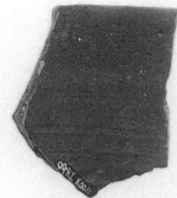
234



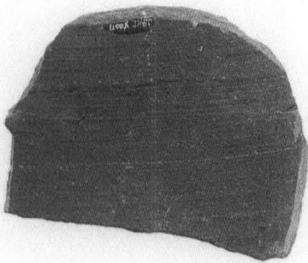
236



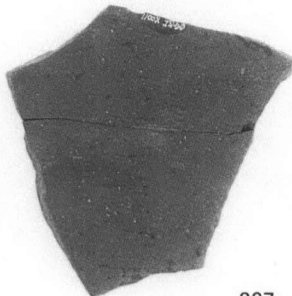
233



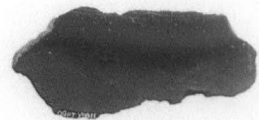
234



236



237

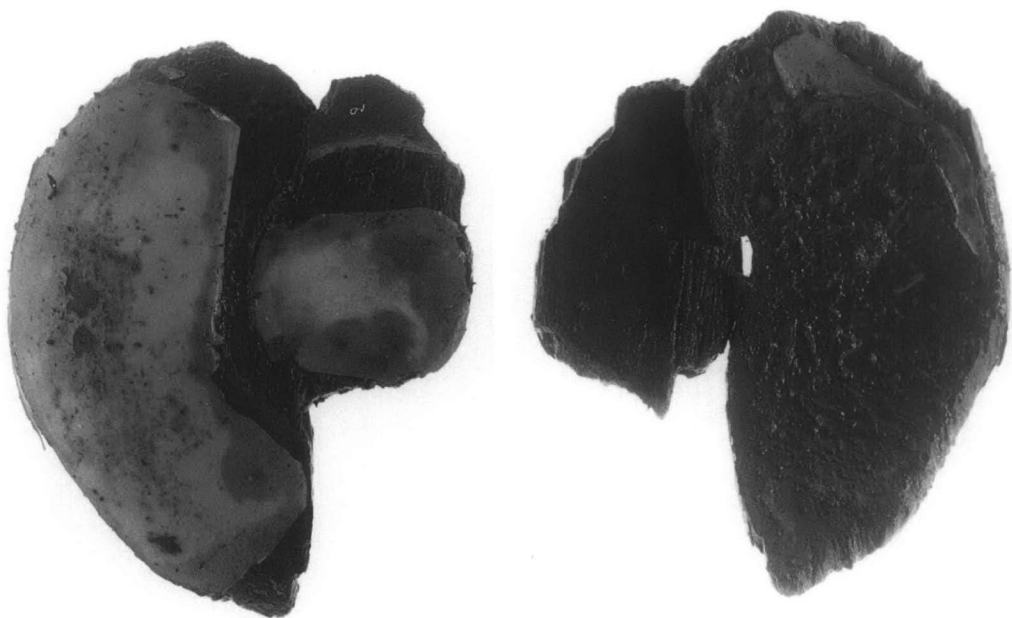


234

図版34 (三条黒島遺跡)



354

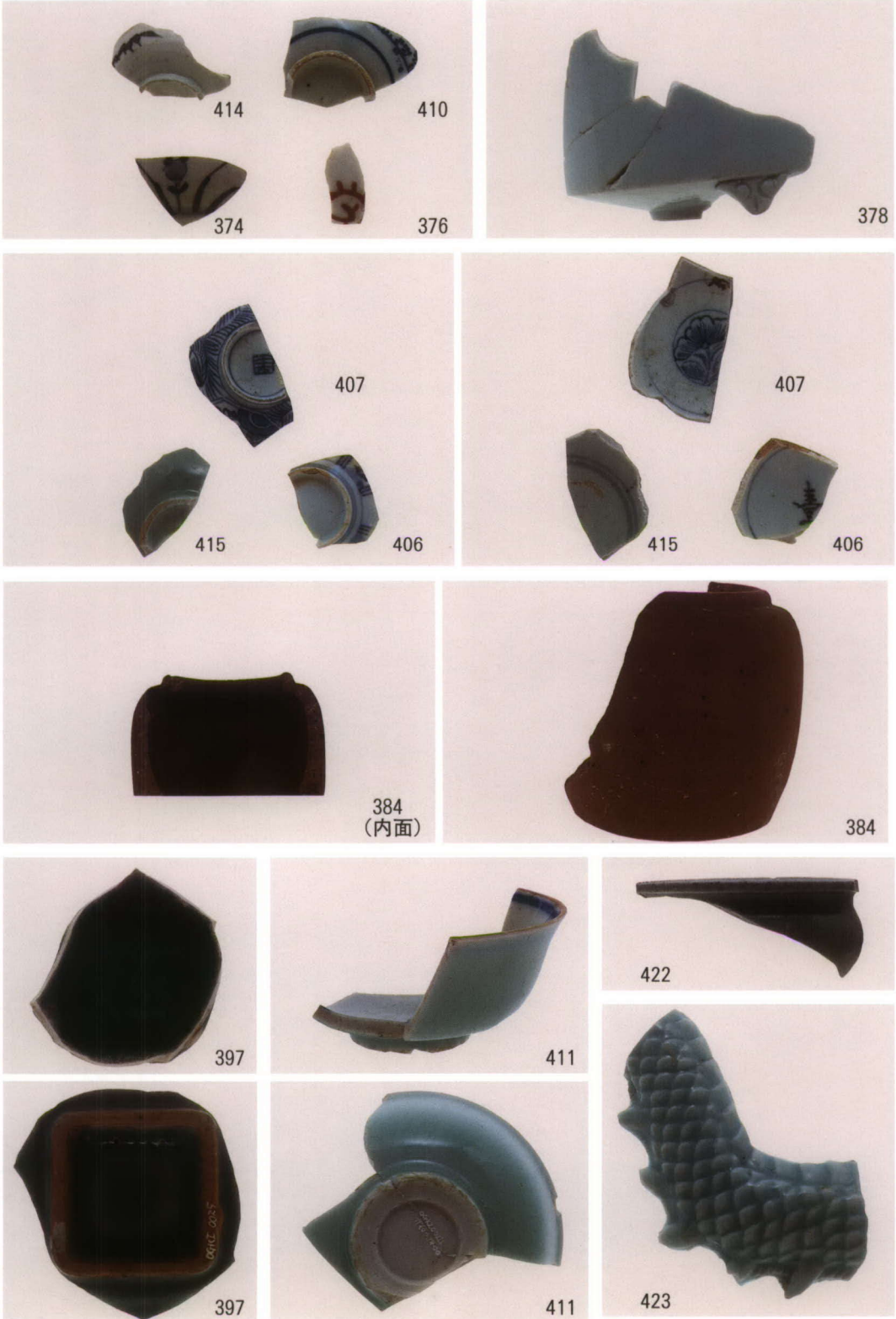


355

355

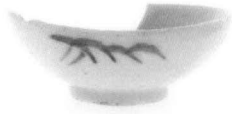
I II区SD-15 出土遺物





IV区第1・2・3段階陶磁器

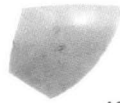
図版36 (三条黒島遺跡)



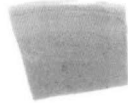
413



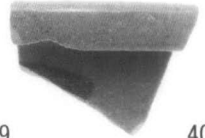
417



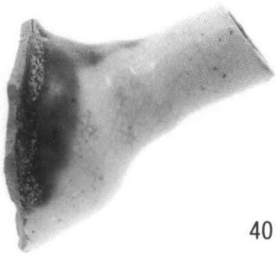
425



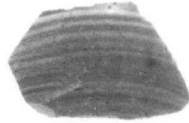
409



402



401



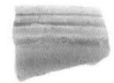
386



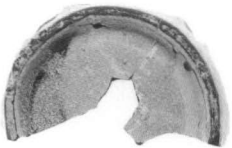
428



387



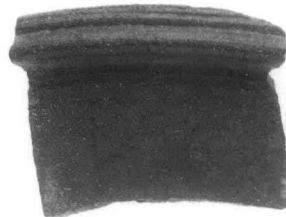
382



429



426



430



388



380



427



387



382



385



381



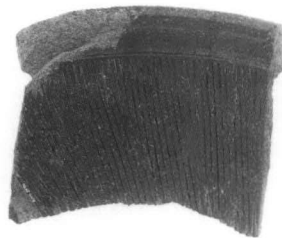
383



389



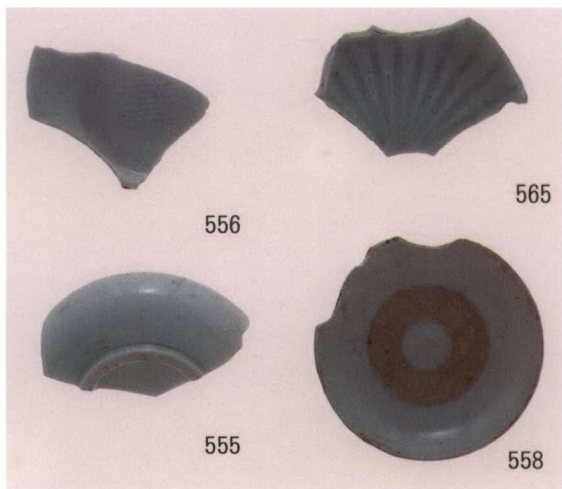
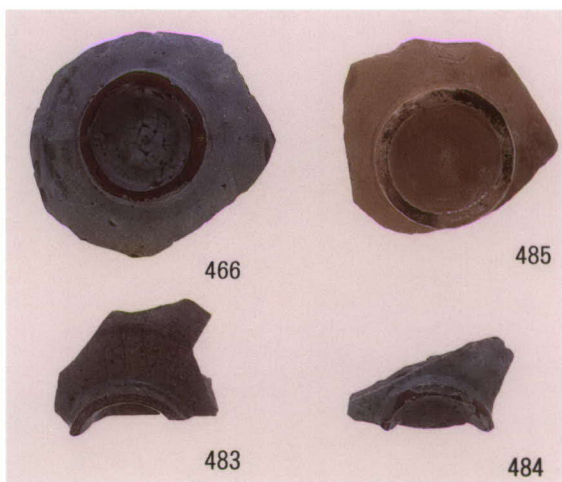
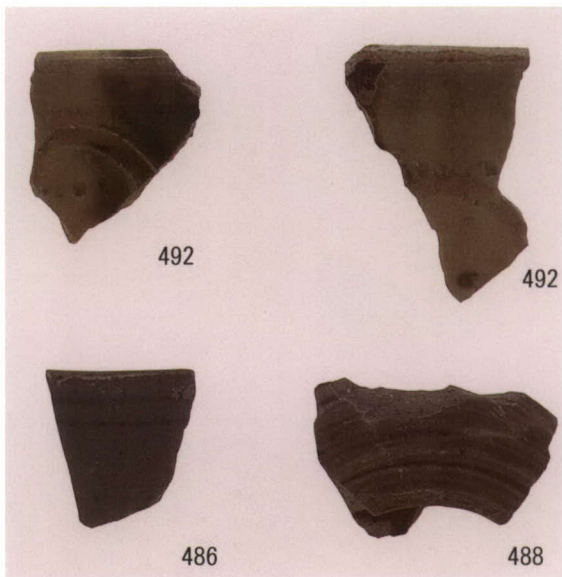
390



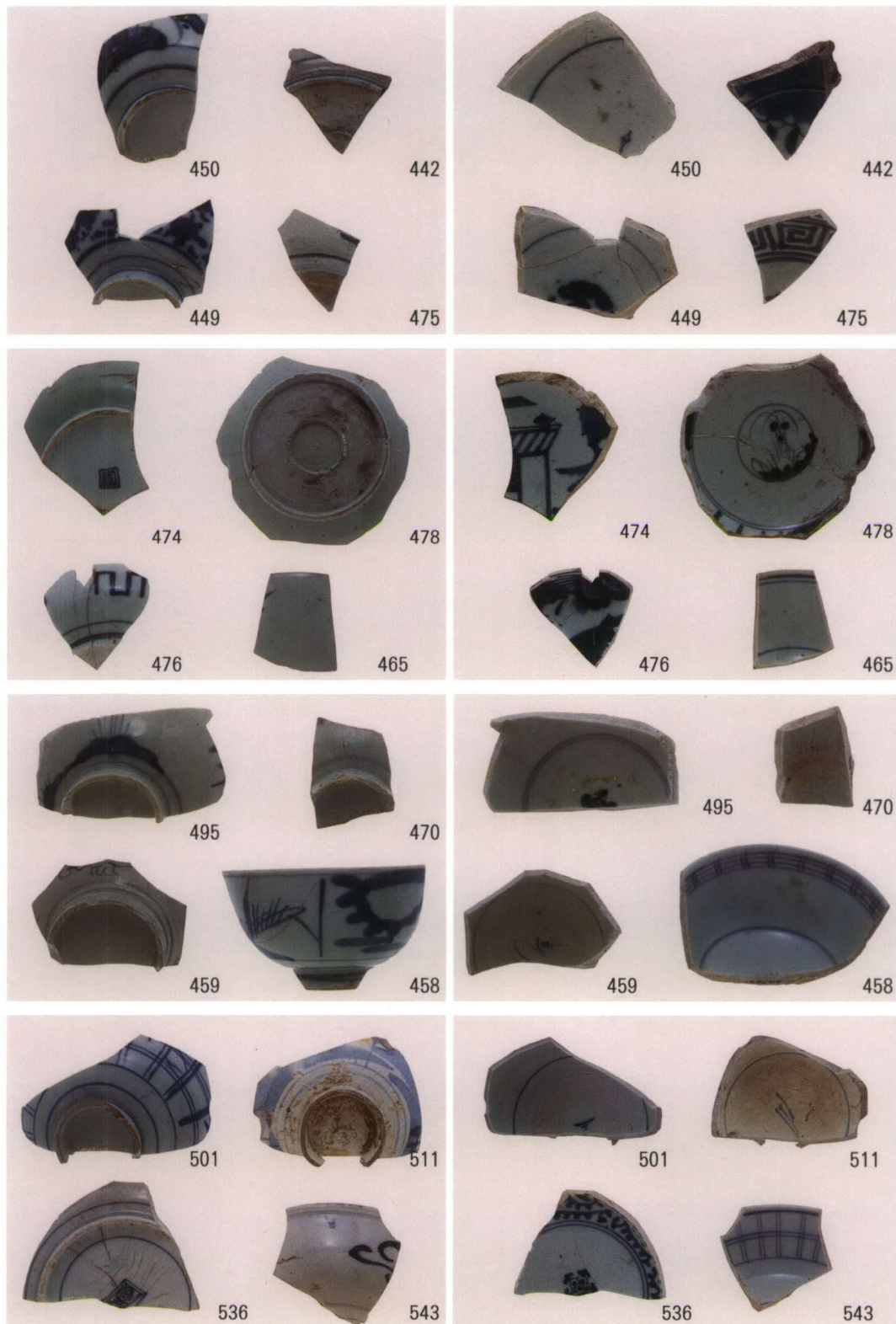
430



388



图版38 (三条黑島遺跡)



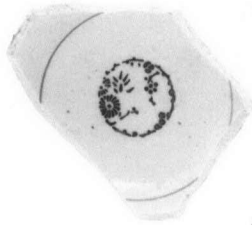
IV区第4・5段階陶磁器



435



446



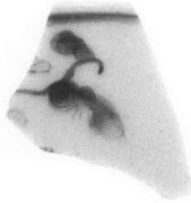
435



446



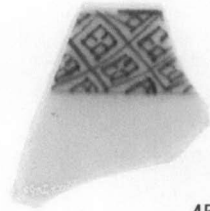
437



452



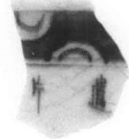
437



452



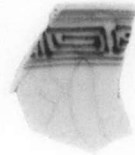
441



440



441



440



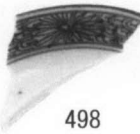
498



496



479



498



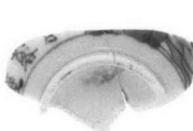
496



479



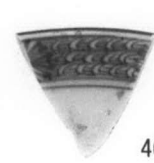
460



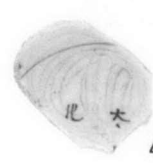
460



464



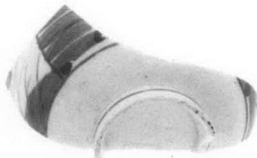
460



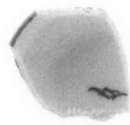
464



546



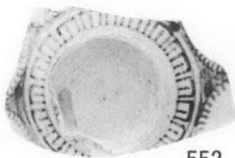
507



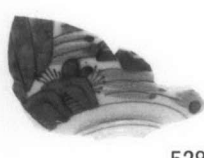
546



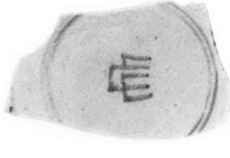
507



552



528

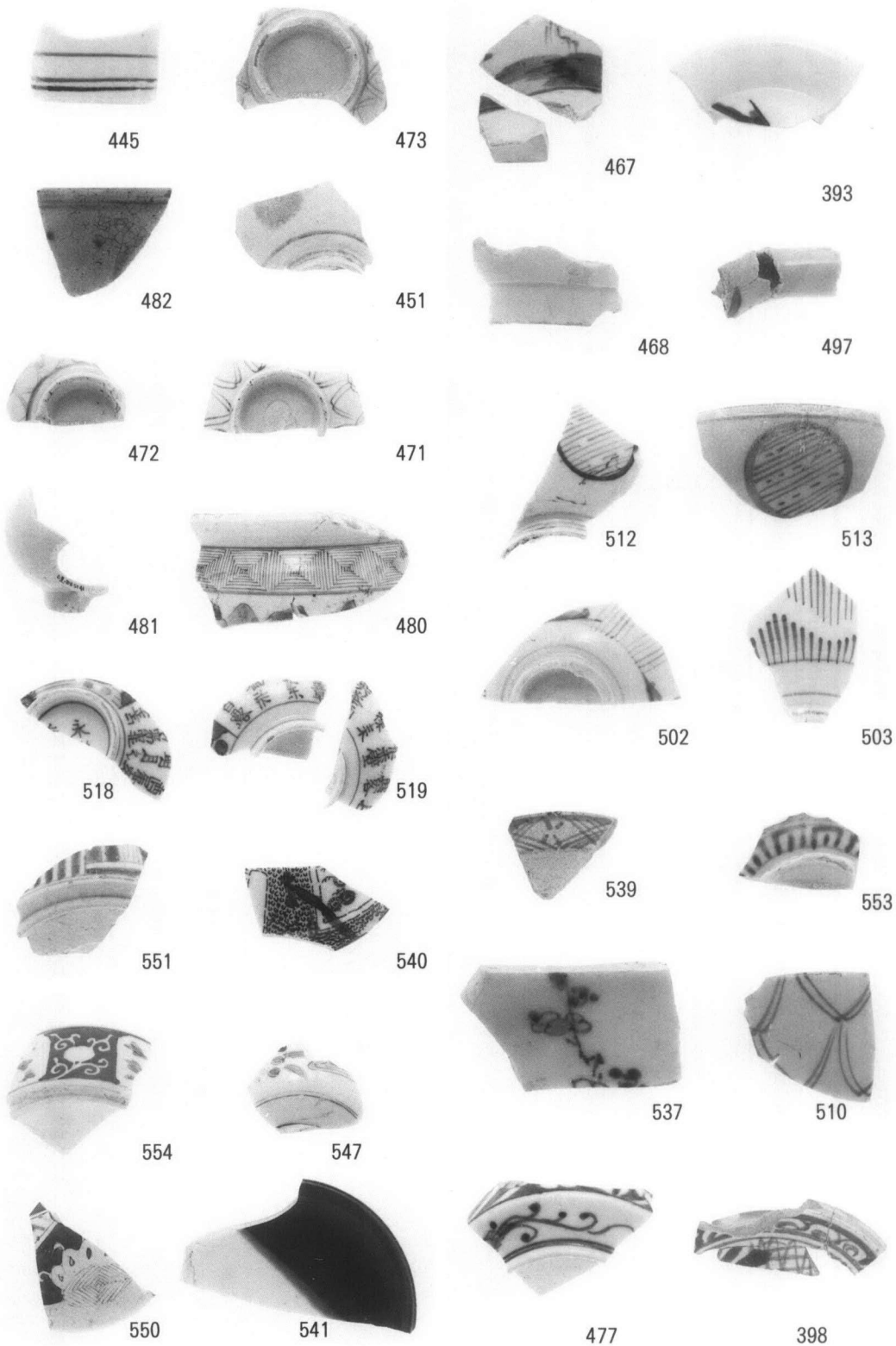


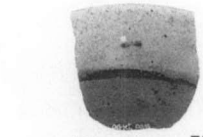
552



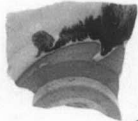
528

图版40 (三条黑島遺跡)





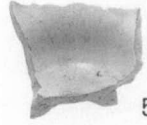
575



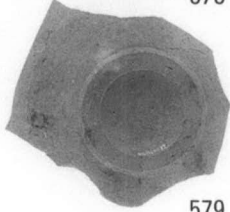
569



575



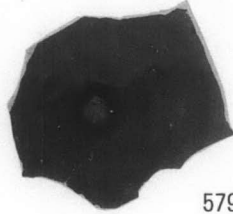
569



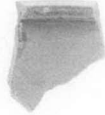
579



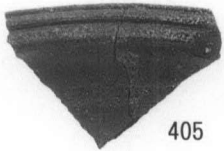
582



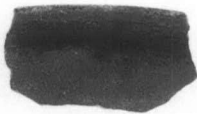
579



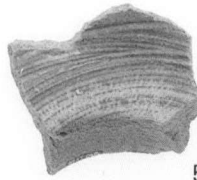
582



405



583



577



570



457



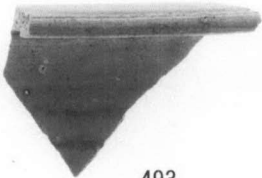
392



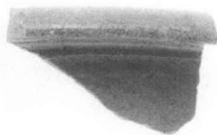
580



572



493



433



448



456



400



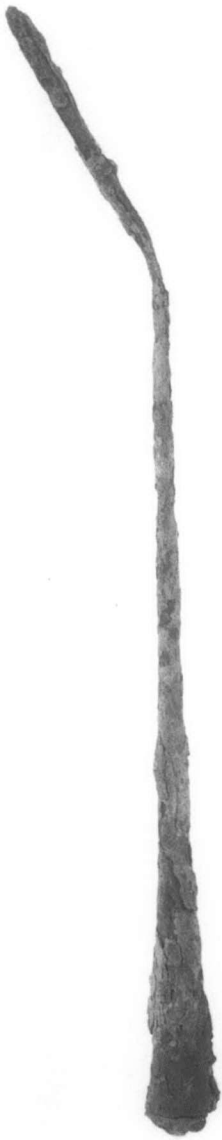
403



490



500



584



584



585



590



586



588

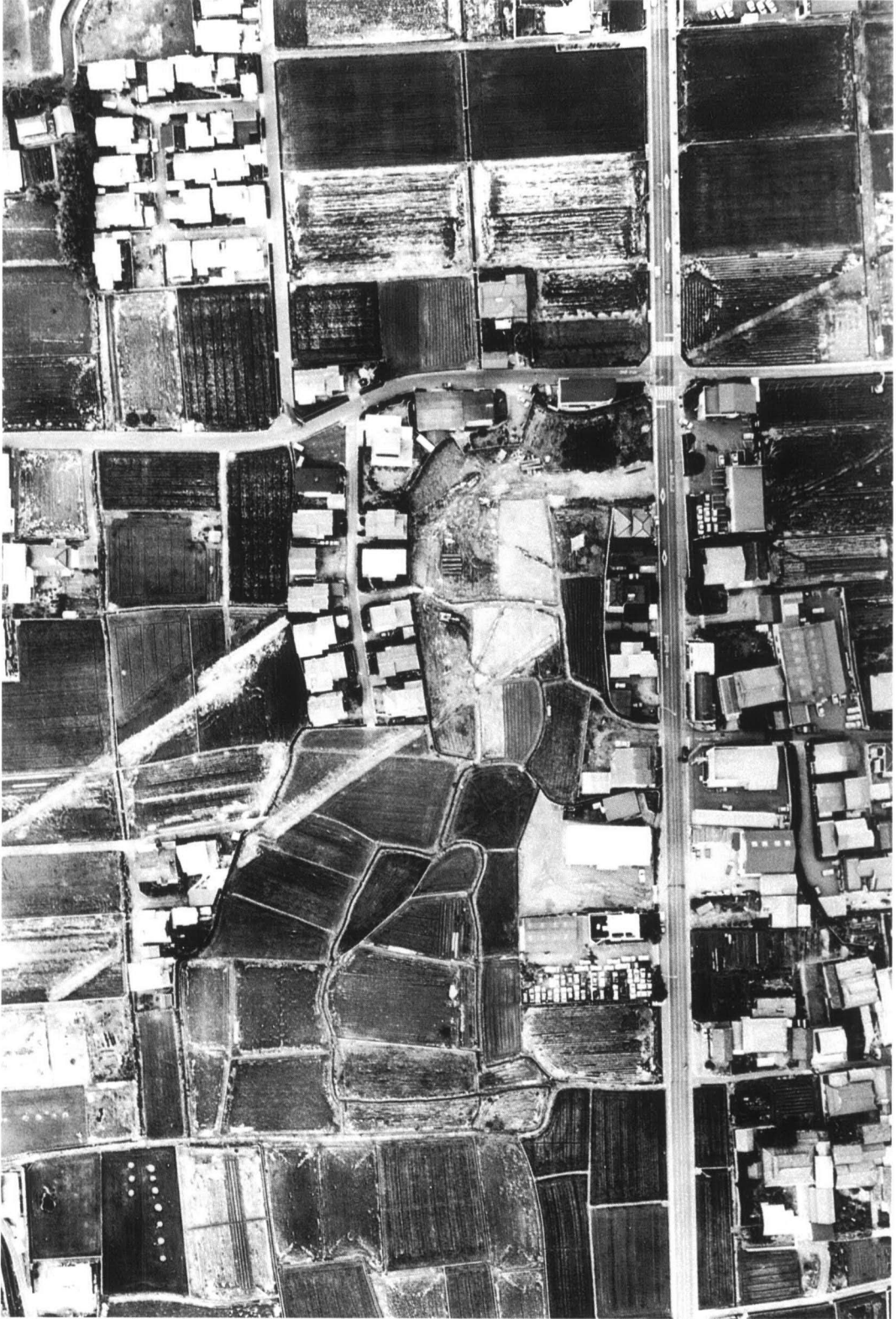


587



591





調査地空中写真

図版44 (川西北七条 I 遺跡)



調査地遠景 (西より)



2区①全景



1区②全景



3区全景

図版46 (川西北七条 I 遺跡)



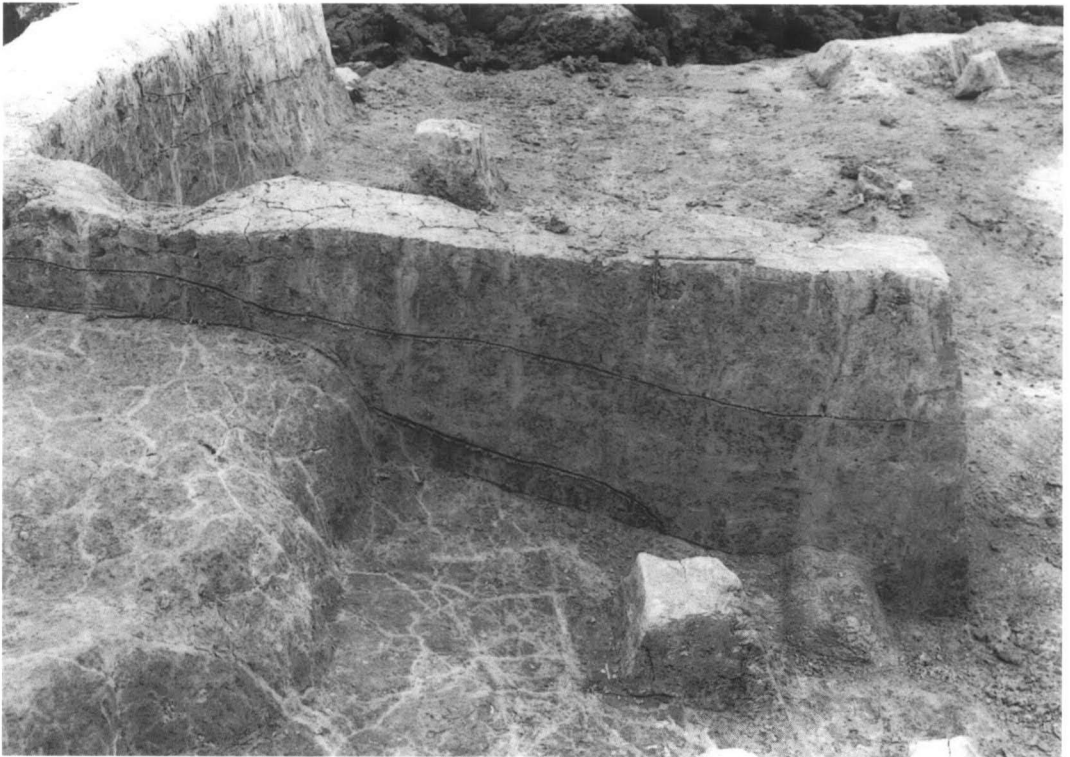
北群石器出土状況 (北より)



北群石器出土箇所土層断面



北群石核出土状況



南群石器出土箇所土層断面

図版48 (川西北七条 I 遺跡)



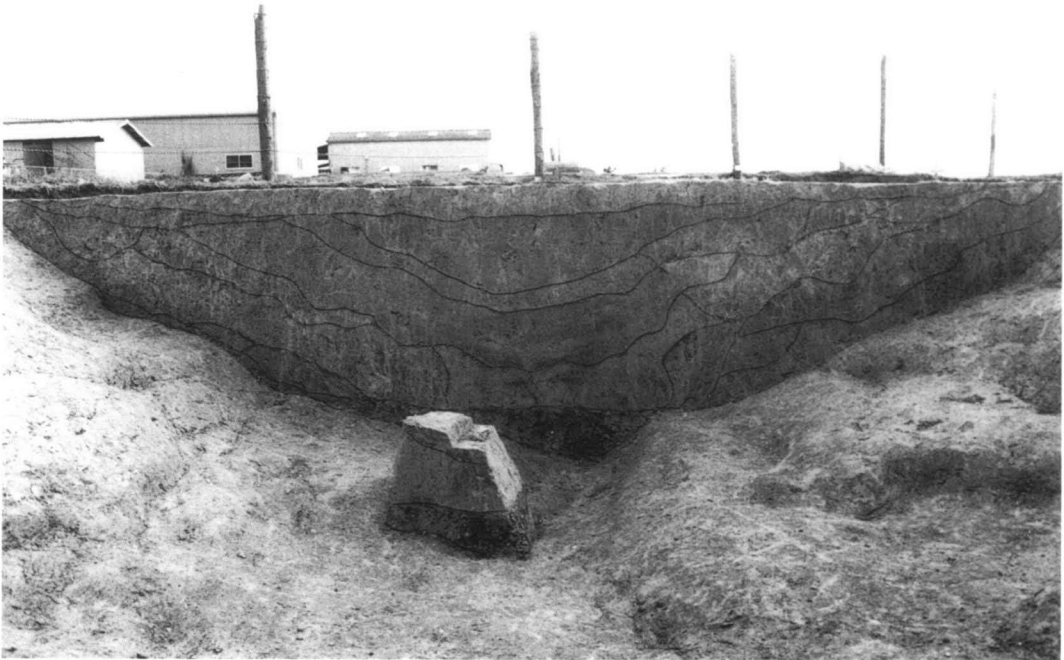
2区②SR-01・SD-01合流部(南より)



2区②SD-01馬頭蓋骨出土状況(北より)

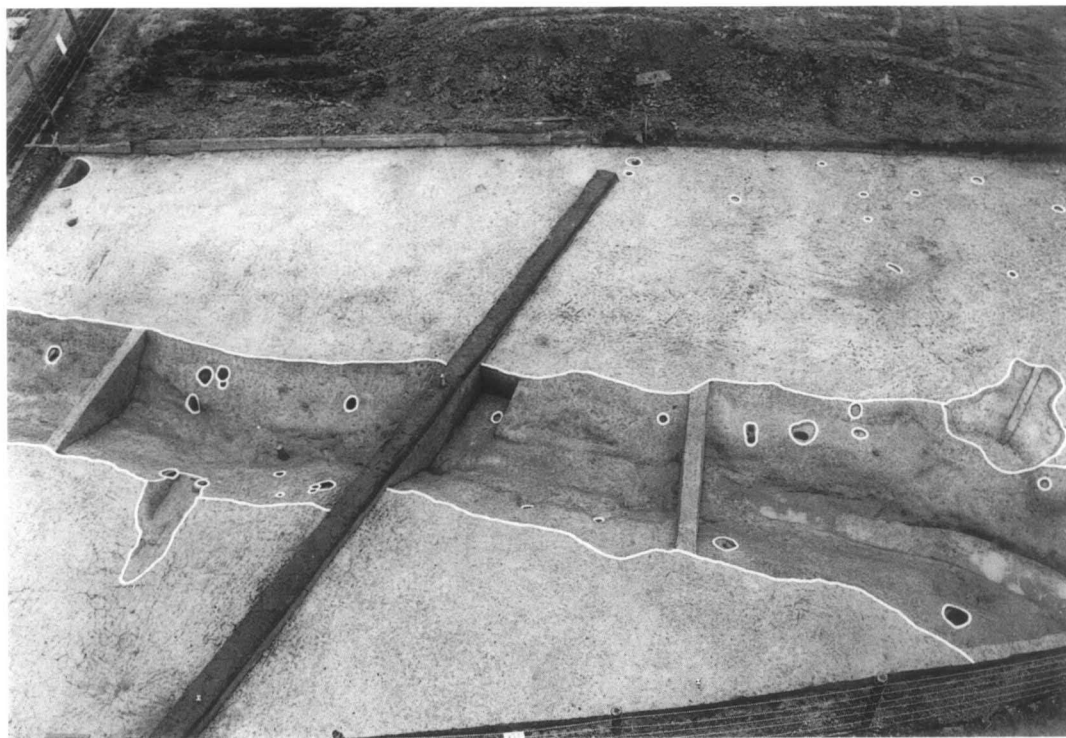


2区②SD-01土層断面



2区①SD-02土層断面

図版50 (川西北七条 I 遺跡)



1区①SD-01完掘状況(東より)



SD-01杭断面





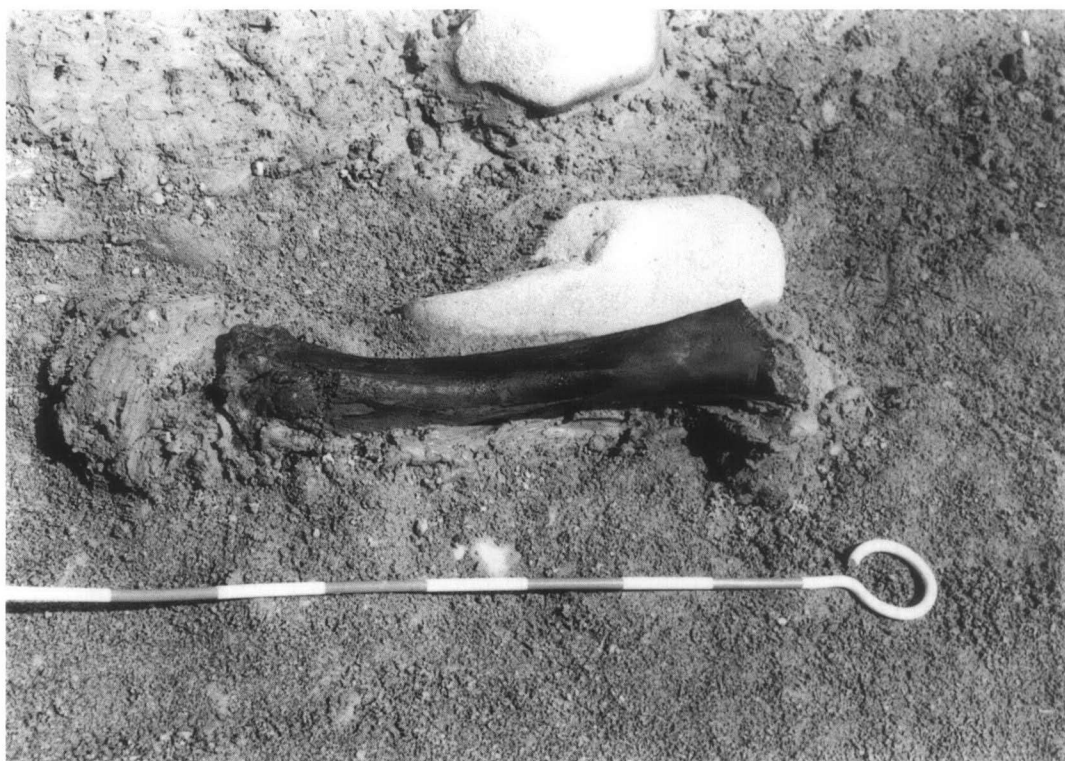
3区SD-04・05 (南より)



2区②SD-03 (東より)



SD-03 獣骨出土状況



SD-03 獣骨出土状況



1区③SR-01完掘状況(北より)



1区③SR-01流路A(東より)

図版54 (川西北七条 I 遺跡)



1区②SX-01 (北より)



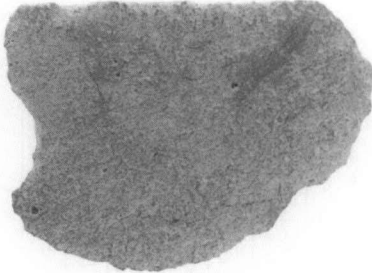
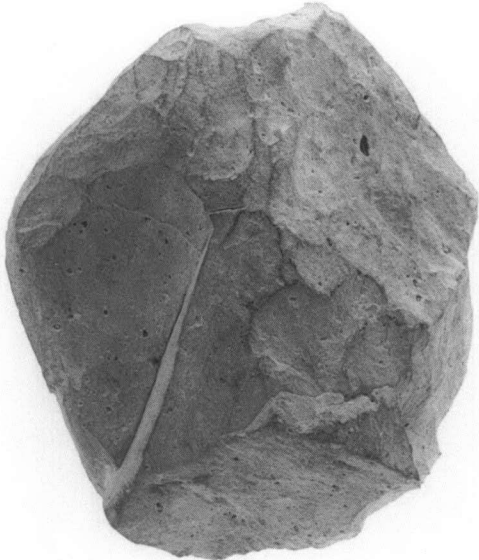
1区③SR-01 杭材出土状況



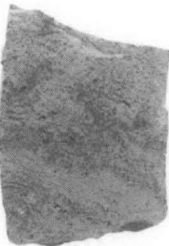
SR-01 出土杭材ほぞ穴部分



SR-01 出土棒材先端部分



1



2

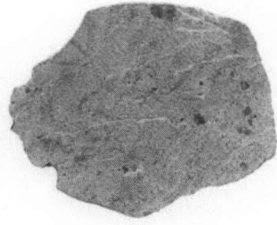


3

北群出土石器 (1)



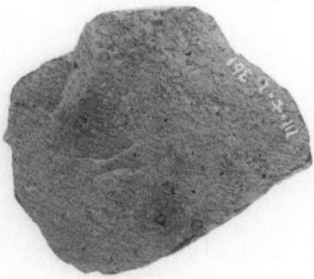
4



5



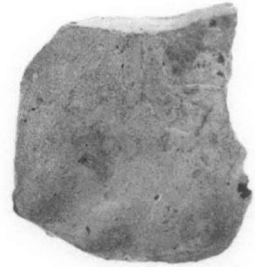
6



4



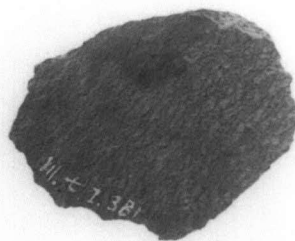
5



6



7



8



10



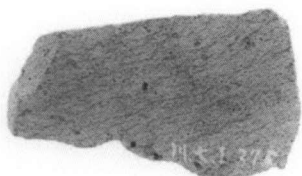
9



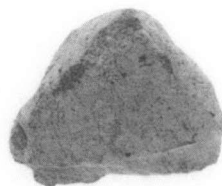
7



8



10

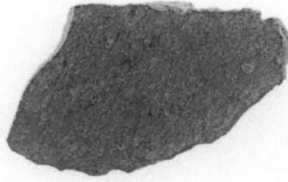


9

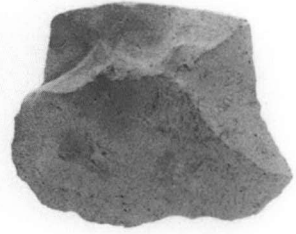




11



12



13



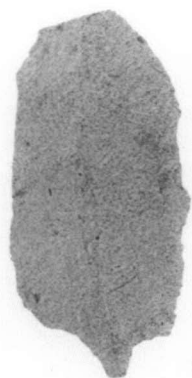
11



12



13



18



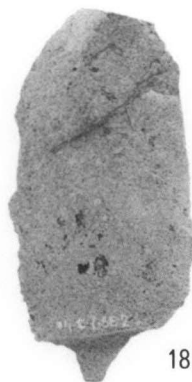
19



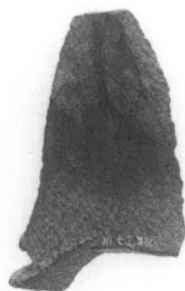
20



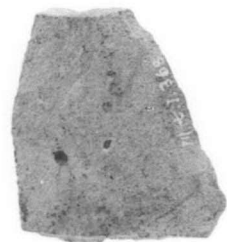
21



18



19



20



21



22



23



25



24



22



23

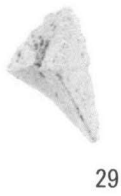
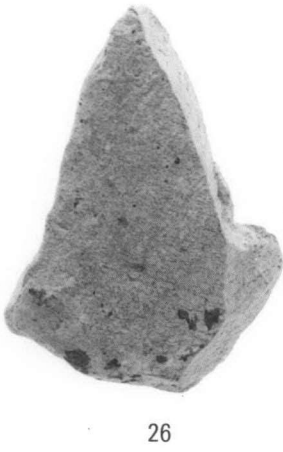


25



24

図版62 (川西北七条 I 遺跡)



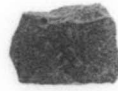
南群出土石器 (1)



33



34



35



36



37



38



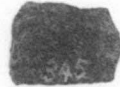
39



33



34



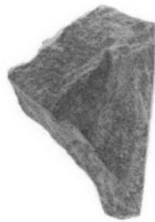
35



36



37



38



39

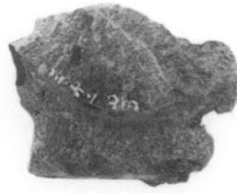
図版64 (川西北七条 I 遺跡)



43



44



45



46



47



48



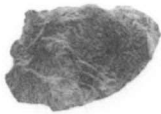
49



50



51



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



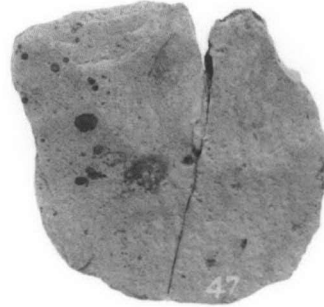
54



56



57



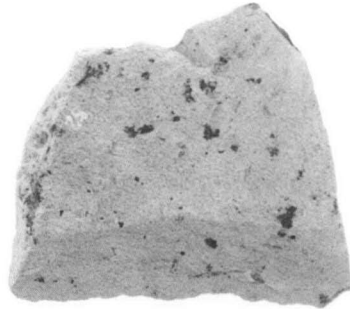
55



52



53



54



56



57

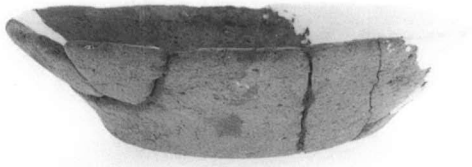


55

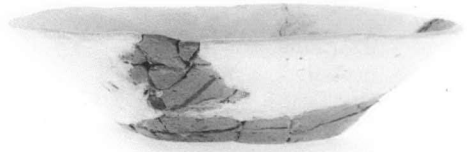
その他の石器







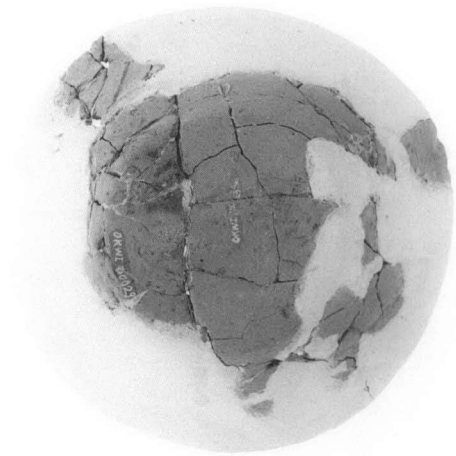
62



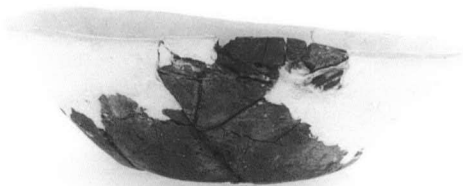
63



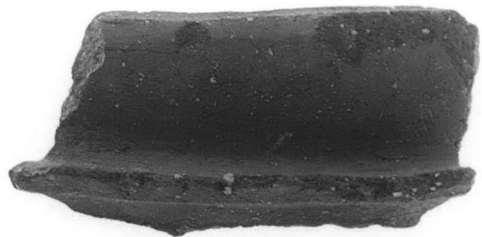
62



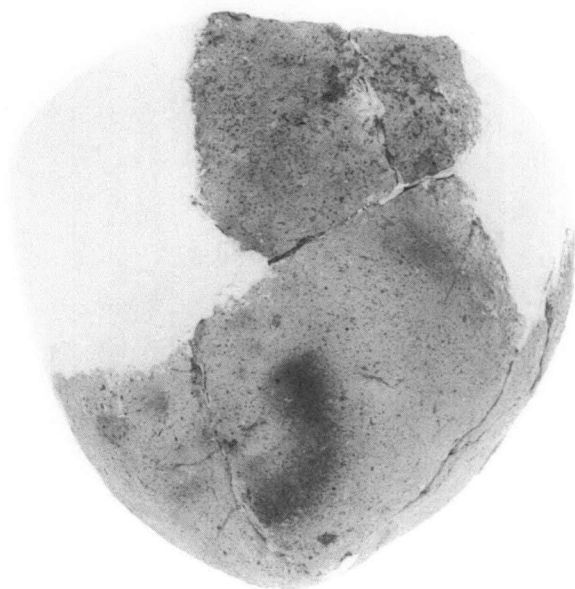
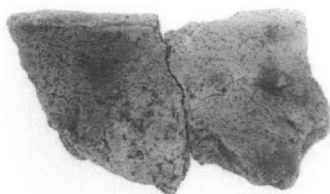
63



64



72



71



133



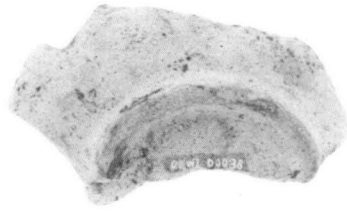
75



74



78



77



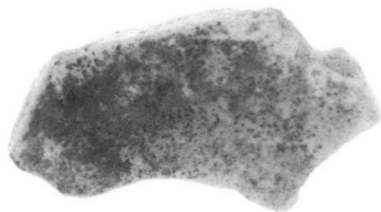
75



74

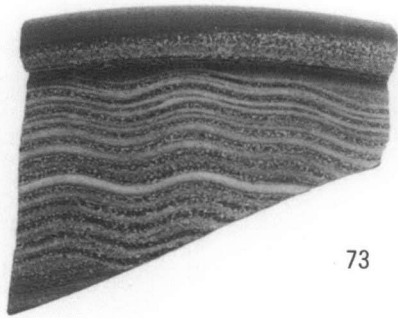


78

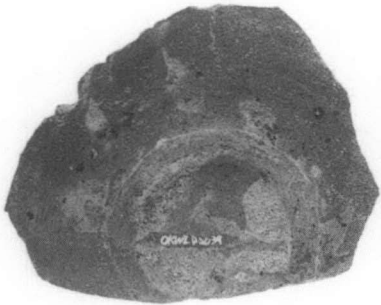


77

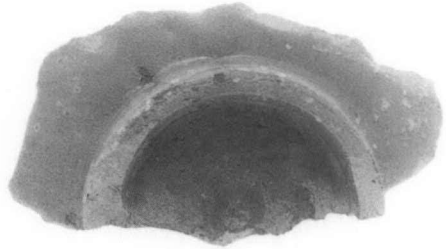
図版70 (川西北七条 I 遺跡)



73



79



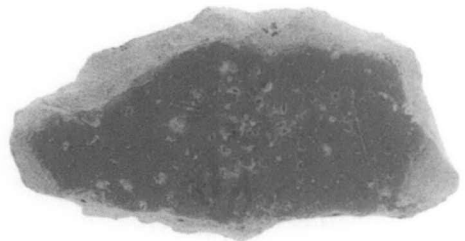
76



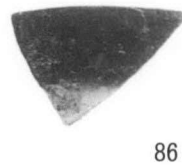
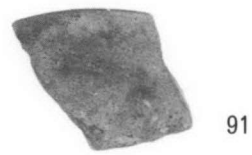
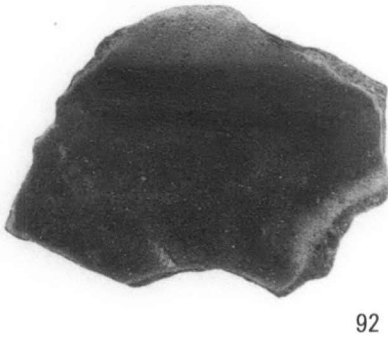
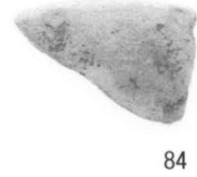
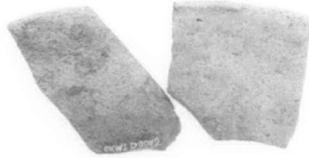
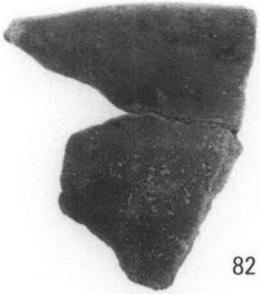
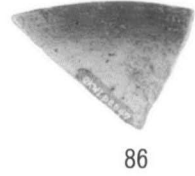
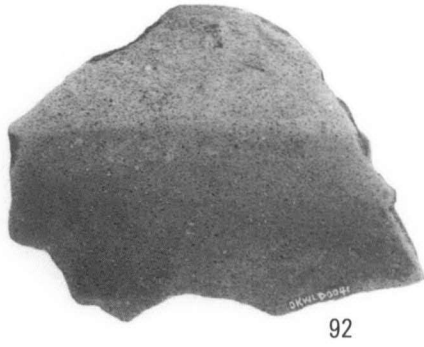
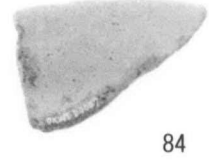
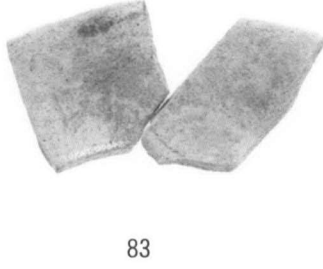
73



79



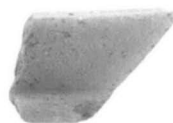
76



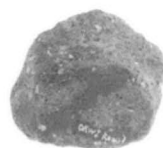
図版72 (川西北七条 I 遺跡)



94



93



96

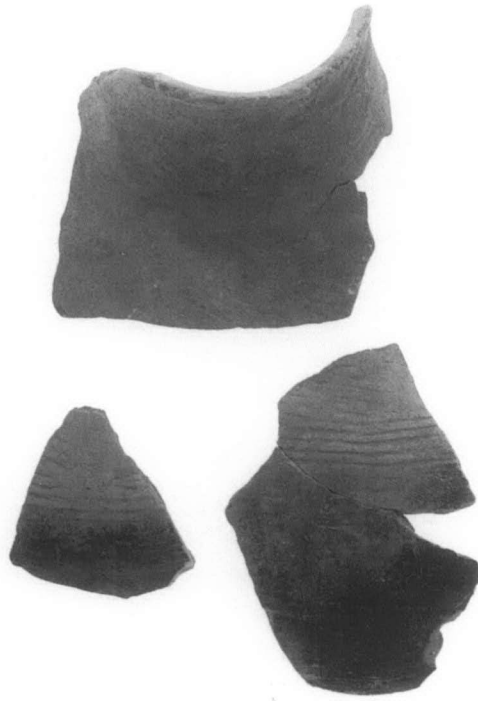


98



99

SR-01 出土遺物 (1)



97



97



100



103

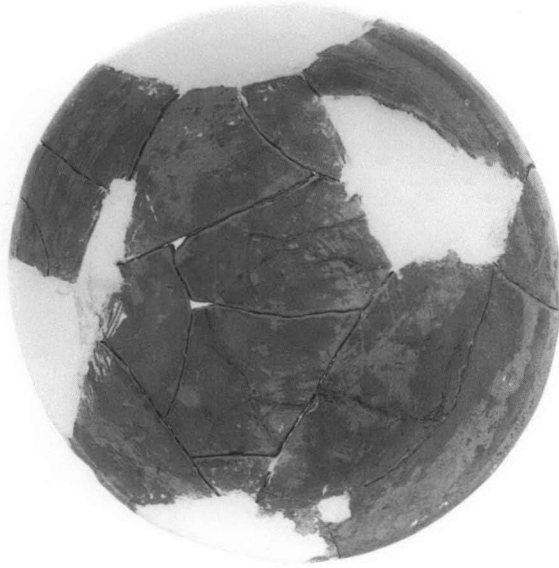


105





108

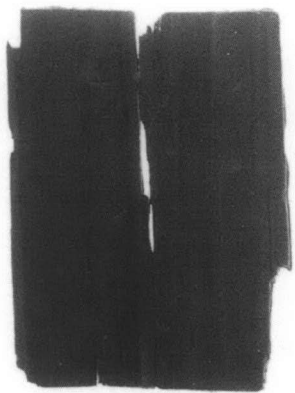


108

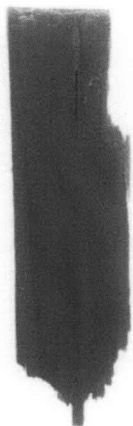


107

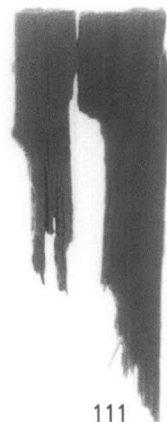
図版76 (川西北七条 I 遺跡)



109



110



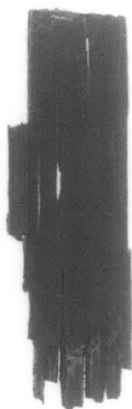
111



112



113



114



115



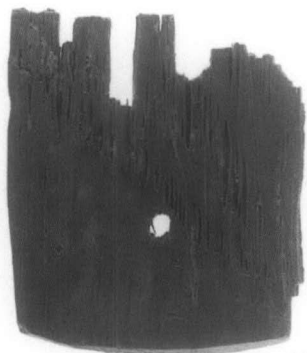
116



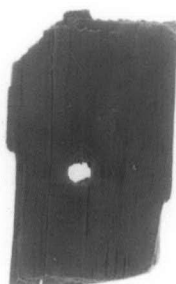
117



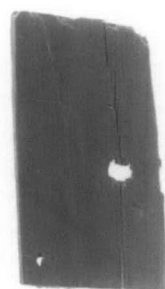
118



121



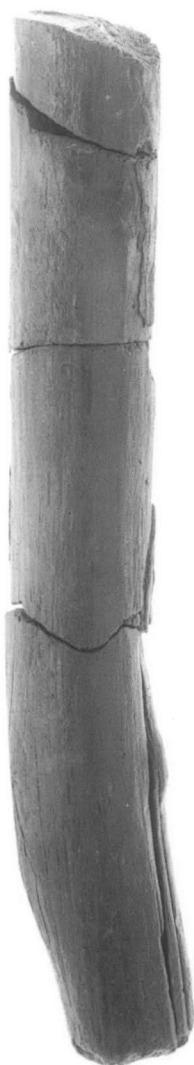
119



120



122



123



125



129



129



128



127



126

## 報告書抄録

ふりがな	さんじょうくるしまいせき・かわにしきたしちじょういちいせき						
書名	三条黒島遺跡・川西北七条 I 遺跡						
副書名							
巻次							
シリーズ名	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	第二十七冊						
編著者名	森下英治・薬科哲男・西中川 駿・日高 祥信						
編集機関	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター						
所在地	〒762 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 TEL 0877-48-2191						
発行機関	香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団						
発行年月日	西暦 1997年9月30日						
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数	
433頁	18頁	299頁	37頁	79頁	196枚	109枚	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北, 緯	東, 経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
さんじょうくるしまいせき 三条黒島遺跡	かがわけんまるがめ 香川県丸亀 さんじょうちよう 市三条町	37202 —	34度 15分 00秒	133度 48分 30秒	19880615～ 19881126	7,677	四国横断 自動車道 建設に伴 う調査
かわにしきたしちじょう 川西北七条 いちいせき I 遺跡	かがわけんまるがめ 香川県丸亀 しかわにしちよ 市川西町北	37202 —	34度 15分 25秒	133度 49分 30秒	19881213～ 19890327	4,034	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
三条黒島遺跡	集落	旧石器時代	石器ブロック	旧石器		旧石器接 合資料	
		弥生時代～ 江戸時代	溝跡 掘立柱建物跡	弥生土器, 石器, 土師器 須恵器, 陶磁器			
		江戸時代～ 明治時代	屋敷跡	土師器, 陶磁器, 鉄器			
川西北七条 I 遺跡	集落	縄文時代	石器集中群	石器			
		弥生時代～ 江戸時代	川跡, 溝跡, 土坑	弥生土器, 土師器, 須恵 器, 陶磁器, 瓦器, 木器			

四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

第二十七冊

# 三条黒島遺跡 川西北七条 I 遺跡

平成9年9月30日 発行

編集 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
〒762 香川県坂出市府中町字南谷5001-4  
電話 (0877) 48-2191 (代表)

発行 香川県教育委員会  
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
日本道路公団

印刷 タナカ印刷株式会社  
住所 香川県大川郡大内町三本松658-3  
電話 (0879) 25-0185

